

山東町埋蔵文化財調査報告書 IV

菅江遺跡発掘調査報告書

序

だいじに大事に使われていた窯

通称「横山」の北端近くから、東へ舌状に突き出た小高い丘。その南面の傾斜ぐあい
が、いかにも「登り窯」の構築に適しているように見えました。杉・桧などが植林され
ていましたが「灰原」と思われる辺りには、無数の土器片が散乱していました。

この丘に接する集落の名は「菅江」(スエ)と呼ばれています。

ここは、須恵器を焼いた窯のあったところと伝えられる周知の遺跡でした。それが、
土地開発事業(土砂採取)によって、平地化されることになりました。

また一つ、わたしたちのふる里から、祖先の^{なりわい}を彷彿させる遺跡を失くして
しまうのです。残念です。惜しいと思います。申しわけないとさえ思えてなりません。

しかし、施工主の花沢工務店の理解と好意、区の人々の協力によって、事前に発掘し
調査することができたことは、何より嬉しいことでした。

やはり、伝えられていたとおりでした。ここに、須恵器を焼いた窯の跡が眠っていま
した。ただ一基だけでしたが、何回も何回も修理した跡があり、わたしたちの祖先が、
いかに大切に使ってきた窯であったかを、もの語っていました。

本報告書が、斯界の研究の進展に役立ってくれることは勿論、より多くの人々の埋蔵
文化財の保全・保護の心を培ってくれることを祈ってやみません。

本調査に、本報告書の作成に、御協力くださった各位に、厚く御礼申し上げて序にか
えます。

昭和62年3月

山東町教育委員会

教育長 西 秋 良 策

例 言

1. 本報告書は、山東町大字菅江地先に所在する菅江遺跡の埋蔵文化財についての発掘調査報告書である。
2. 本調査は、花沢工務店（長浜市）の菅江土砂採取事業に伴うもので、滋賀県教育委員会事務局文化財保護課の指導・助言を得て、山東町教育委員会 社会教育課が実施した。
3. 現地調査及び整理にあたっては、林 孝好・鶴野浩司・長野忠義・中嶋一人・田中 養次・安田正浩・武立信明の諸君、中森清一・中森 進・中森よしの・高森ふさ子・中森清子・居林きよ・久保田みよ系の諸氏の参加と谷口千夏・谷沢稚香子の協力を得た。遺物写真については、寿福 滋氏（寿福写房）を煩わした。また、花沢工務店にも調査に際して御協力を得た。記して感謝の意を表したい。
4. 調査及び本書の作製については、山東町教育委員会社会教育課主事、桂田峰男が担当した。

目 次

序

例言

(目次・挿図目次・図版目次)

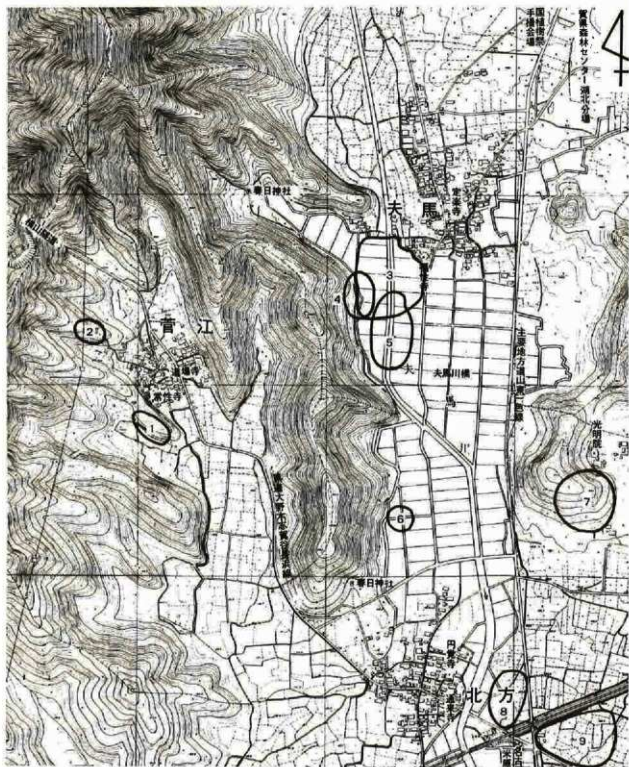
I. はじめに (調査経過及び調査方法)	1
II. 位置と環境	2
III. 検出遺構	
1. 竈跡	4
2. 灰原	8
IV. 出土遺物	12
V. おわりに	30
表1. 出土遺物観察表	32
表2. 菅江竈跡、西谷竈跡出土須恵器の蛍光X線分析試料の観察表とデータ	58

挿 図 目 次

図 1. 調査地周辺図	
図 2. 地形図	3
図 3. 一号竈遺構図 (第 2、3 次層)	6
図 4. 一号竈遺構図 (第 1 次層) 及び断面図	7
図 5. 第一灰原、第二灰原遺構図	9
図 6. 第一灰原、第二灰原断面図	10
図 7. 出土遺物実測図 (一号竈、第一灰原)	18
図 8. 出土遺物実測図 (第一灰原)	19
図 9. 出土遺物実測図 (♡)	20
図 10. 出土遺物実測図 (♡)	21
図 11. 出土遺物実測図 (♡)	22
図 12. 出土遺物実測図 (♡)	23
図 13. 出土遺物実測図 (♡)	24
図 14. 出土遺物実測図 (♡)	25
図 15. 出土遺物実測図 (第二灰原)	26
図 16. 出土遺物実測図 (♡)	27
図 17. 出土遺物実測図 (♡)	28
図 18. 出土遺物実測図 (第二灰原、試掘)	29

図 版 目 次

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 図版一 | 調査前風景（西から）
調査前風景（東から） |
| 図版二 | 1号窯露出部（調査前）
1号窯断面（B—B'） |
| 図版三 | 1号窯第3次層（上層）検出状況
1号窯第2次層（中層）検出状況 |
| 図版四 | 1号窯第1次層（下層）検出状況
1号窯遺物出土状況 |
| 図版五 | 第一灰原検出状況（北から）
第二灰原全景（西から） |
| 図版六 | 第二灰原検出状況
第二灰原遺物出土状況 |
| 図版七 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版八 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版九 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十一 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十二 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十三 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十四 | 第二灰原出土遺物 |
| 図版十五 | 第二灰原出土遺物 |
| 図版十六 | 第二灰原、試掘出土遺物 |
| 図版十七 | 1号窯、第一灰原出土遺物 |
| 図版十八 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版十九 | 第一灰原出土遺物 |
| 図版二十 | 第二灰原出土遺物 |
| 図版二十一 | 第二灰原出土遺物 |



- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1. 菅江遺跡 | 2. 双林寺遺跡 | 3. 上向川遺跡 |
| 4. 彈正塚古墳群 | 5. 出口遺跡 | 6. 塚本古墳 |
| 7. 池下城跡 | 8. 東良遺跡 | 9. 西代遺跡 |



図1 調査地周辺図

I. は、じ、め、に

菅江遺跡は、山東町北西部、山東町大字菅江^{すえ}小字宮谷に所在し、現在の菅江集落と舌状丘陵をはさんだ南側谷奥部の丘陵斜面に立地する周知の遺跡である。従来より、須恵器碗・蓋・甕などが採集され、またスサ入り粘土塊が伴出していることから、小品を中心に生産した須恵器窯が存在すると知られていた^①。

今回の調査は菅江地区南側の丘陵地帯において、花沢工務店による土砂採集事業が計画され、当該地が菅江遺跡にあたるため、工事と並行して発掘調査を実施した。

現地調査は昭和61年7月1日から10月6日までで、以後は出土資料の整理調査を実施した。

注

- ①田中勝弘「山東町菅江集落出土の須恵器」(『滋賀文化財だより』No.10,1978)
田中勝弘・奈良俊也「坂田郡山東町内遺跡詳細分布調査報告書」(財)滋賀県文化財保護協会・山東町教育委員会 1986

Ⅱ. 位置と環境

横山丘陵を境として長浜市・近江町と接している山東町は、北に伊吹山南麓、南に鈴鹿山系が連なり、大半を山丘部が占める盆地である。

菅江遺跡の立地する菅江地区は、横山丘陵を境にして長浜市鳥羽上町と対比し、横山丘陵から突き出す丘陵部のうち、通称“東山”と呼ばれる丘陵と大小からなる舌状丘陵にはさまれた谷段丘地域に形成される。現在の標高は135～145m付近である。この谷段丘地域から南東にかけて開析された地形には、北端を西流する姉川と山丘部の狭い谷部を西流する天の川の両河川によって形成されている肥沃な沖積平野がひろがる^①。この平野部を南流する黒田川に沿って、現集落が形成されており、また多くの周知遺跡の存在が確認されている。

今回調査した菅江遺跡は、現菅江集落南に突き出た舌状丘陵の南側谷奥部の丘陵斜面に立地し、標高140～157m付近を計る。古くは、陶江・菊江又は菅江という文字を用い、従来から多くの須恵器片が採集されていることから、須恵器窯の存在が知られていた。

本遺跡が所在する横山丘陵上及び付近には、本遺跡をはじめ西谷遺跡・烏脇遺跡・深沢谷遺跡・今中遺跡など現在周知されている全ての窯跡が存在しており、特に、現在墓地となっている西谷遺跡では今でも多くの須恵器を採集できる。また、これ以外にもいくつかの窯跡がこの横山丘陵に存在する可能性は高いと思われる。

横山丘陵が菅江遺跡も含めて生産遺跡群として出現したことは、当然その生産物を供給する場が存在していた故であり、17棟以上の掘立柱建物跡、四脚門と呼ばれる門跡、溝状遺構、井戸跡など多数の遺構と木札や多くの土器が出土し、郷長クラスの遺跡とされた北方田中遺跡^②をはじめとして、広範囲におよぶ集落において使用されたことは想像に難くない。

註

①桂田峰男『上向川遺跡発掘調査報告書』山東町教育委員会 1987

②滋賀県坂田郡教育会編『改訂 近江國坂田郡志』第1巻 1975

③田中勝弘・奈良俊也『坂田郡山東町内遺跡詳細分布調査報告書』滋賀県文化財保護協会・山東町教育委員会 1986

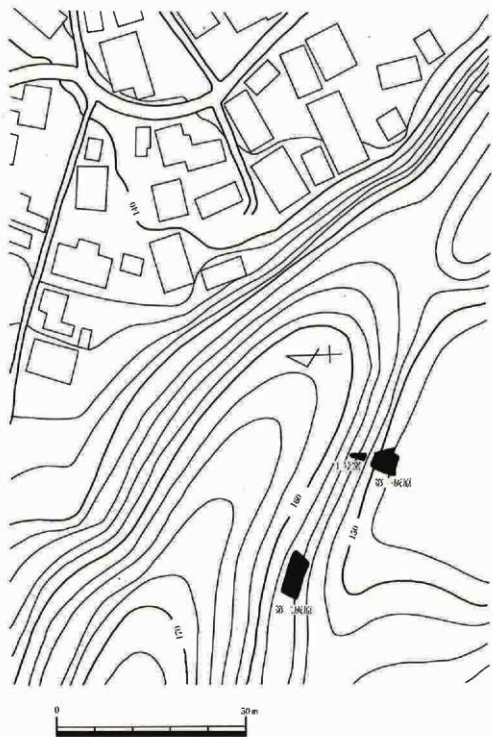


图 2 地形图

Ⅲ. 検 出 遺 構

今回の調査で判明した遺構としては、1号窯窯体と1号窯に伴う第一灰原全体と、灰原のみの第二灰原全体である。1号窯は前庭部・焚口が消失しており、また第一灰原と第二灰原も完全とはいえず、窯体・灰原の正確な全体像を把握することはできなかった。

なお窯の床面延長は水平位になおさず実長をそのまま用いており、また、表現上「右側」「左側」については焚口から奥に向かって見た方向で述べることにする。

1. 窯 跡

(1号窯)

横山丘陵東側に派生する現菅江集落南の舌状丘陵南側斜面に1号窯の窯体はあり、地山を掘り下げた半地下式登窯である。現存する床面で標高152.4~155.3mに築かれている。斜面は比較的斜度が強く、窯体は等高線にほぼ直交しているので焼成部床面もまた急である。

窯体は焚口を失っているので全長は不明であるが、現存する焚口と思われる部分から煙道部にあたる部分まで実長4.4mを測り、窯体主軸の方向はN-18°-Wである。窯幅は燃焼部・焼成部ともに大きな差はないが、床幅については燃焼部がやや狭く、焼成部下半部で最大幅約1.5mを測る。天井部については確認するに至らなかった。

また、現存遺構全体の保存状態は比較的良好と思われるが、煙道部にあたるとと思われる部分は、単に窯体の輪郭が焼土のラインとなって、わずかに残るのみである。従って立ち上がりなど煙道部に関する詳細な構造は不明である。

消失した際に露呈した断面(B-B'断面)観察から、2回の床面補修を認めた。また、主軸方向に平行な断面においても同様の結果を得ることができる。しかし、焼成部下半部に設けた窯体を横断する土層観察用の断面(A-A'断面)には補修の痕跡を認めないことから、焼成部下半部においてのみ補修が行われたものと考えられる。これらの内、最初の床面を第1次窯体、最終の床面を第3次窯体とする。

(第1次窯体)

焚口及び燃焼部 焚口及び燃焼部は現存する窯体より傾斜変換部までの実長1.8mに充当し、床は奥へ向かってやや右に傾く。床面左右の側壁は比較的良く残っており、かな

り堅牢な淡灰色のガラス状を呈している。奥行き1.0m前後の地点で床幅は最も狭くなっており、1.0mを測る。またこの最小床幅地点より下半部へ大きくハの字形に拡がりを見せていることなどから、最も燃焼部に近い焚口部にあたるのではないかという可能性を示唆している。ただ、前庭部なども消失しているので連断するのは避けたい。

奥へ向かって1.0mのところ、床面に長径0.8m、短径0.4m以上、深さ0.1m前後の広く浅いやや楕円形のくぼみを認めた。くぼみの底は淡灰色でガラス状の堅い面を呈しており、暗黄灰色粘土が充填されていた。この浅いくぼみは燃焼部にあたり、いわゆる船底状ピットであろうと思われる。また、このくぼみ内に淡赤褐色を呈した生焼けの甕の口縁部から体部にかけての破片が出土した。当初は、操業中または窯出しの際に破損しこのくぼみに落ちこんだものかと考えられたが、口縁及び体部外面に窯床と同色の淡灰色の傷が多く見られ、また、体部内面の同心円文が不定方向による多数の傷により消えていることなどから、製品置台ではないかと推察する。おそらく口縁部の反りのある部分を利用して、素形が安定するように一方が高く一方が低く、縦断面がほぼ三角形になるようにしたのではないだろうか。^①

焼成部 焼成部は奥行き1.8mを測る燃焼部の船底状ピット上部傾斜変換部より20°～30°の斜度で立ち上がり、部分的にややなだらかな面をもつ。床面は焼成部下半部で最大幅1.5mを測り、奥に向かって次第に狭くなっている。

床面及び両側壁の保存状態は比較的良好で、燃焼部同様堅牢なガラス状を呈している。燃焼部においてさほど差違を認められなかった両側壁であるが、焼成部に設けた土層観察用断面では、左側壁が右側壁に対して大きく外方へ開く掘り方を呈している。

この焼成部のほぼ中央部でやや傾斜がゆるやかになる斜面上において、口縁を下にした形で杯身2点を検出した。特に高台を有した杯身については、欠損部が焚口の方向に位置しており、また底部外面に粘土ひも塊が残存している。このことから考えられるのは、急傾斜の床面に製品を水平に保つためにこの杯身の欠損部を利用したのではないかということ。また製品を固定するために粘土塊を利用したのではなかったかということである。つまり、この2点もまた前述の甕の口縁部同様、製品置台として使用された可能性が高いということである。

〈第2次窯体〉

第2次窯体は、第1次窯体床面（淡灰青色粘土）との間の暗黄灰色粘土、暗橙色粘土の間層上にあり、第1次窯体より約0.2m上位に設けられている。第2次窯体は燃焼部に

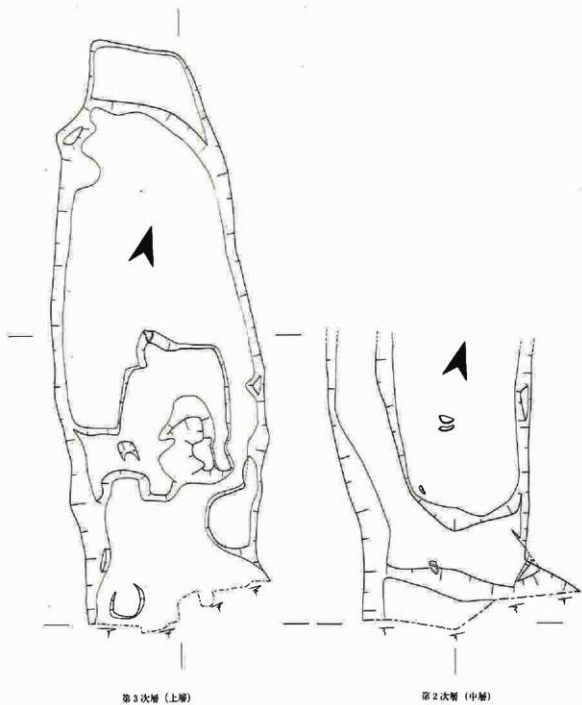


图3 1号窟遺構圖(第2、3次層)

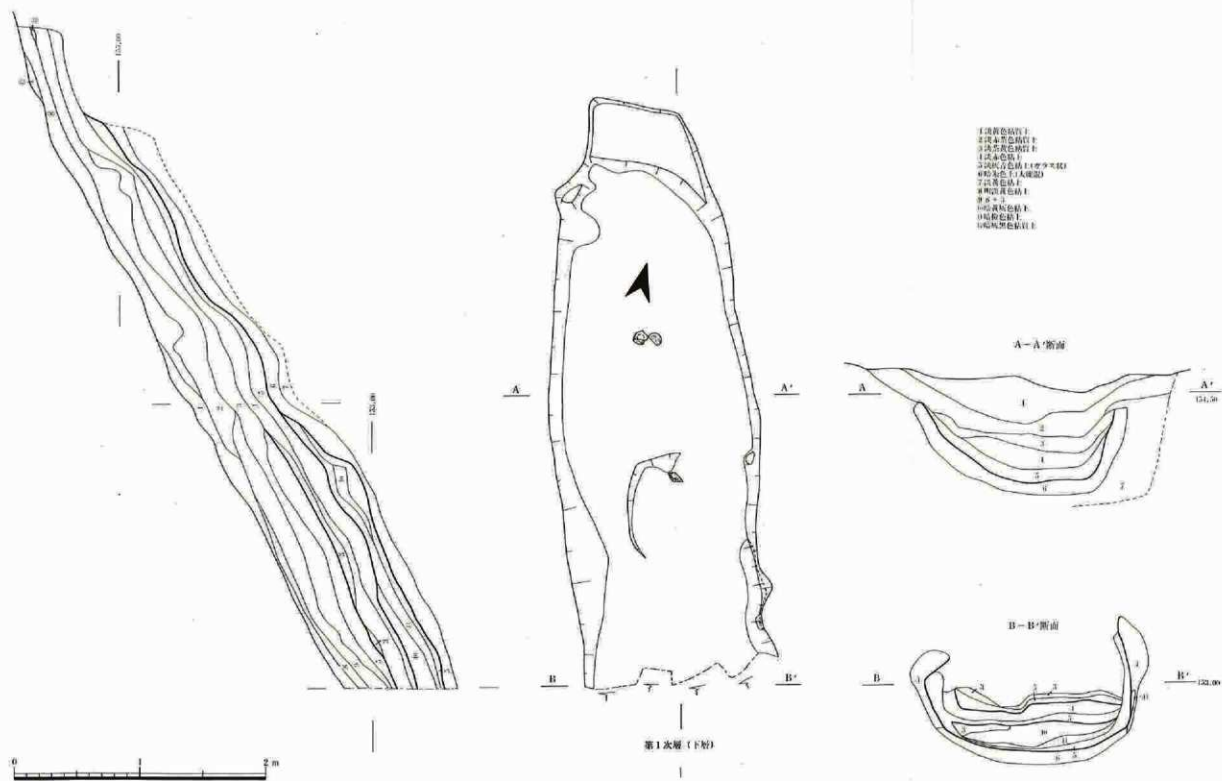


图4 1号室透视图(第1次层)及剖面实测图

あたる部分においてのみ床面補修が認められ、焼成部は第1次窯体をそのまま使用している。全体の床面及び側壁の保存状態も比較的良好で、床面・側壁は淡灰青色粘土でガラス状を呈している。

燃焼部 燃焼部は現存する窯体から奥へ向かって実長約2.2mを測る傾斜変換部までに充当する。奥行き0.75mで床面最小幅約1.0mを測り、奥へ向かって左側壁のみ広くなっている。床面は現存する窯体より30°の急勾配で立ち上がる。

奥へ向かって0.8mのところから、長径1.4m、短径0.8m、深さ0.15m前後の長方形のくぼみ、或いは落ち込みを認めた。この落ち込みは第1次窯体のいわゆる船底状ピットのくぼみとは異なり、全体的に落ち込んでいるという表現の方が的確であろう。しかし、この落ち込みの意図するものは不明である。

〈第3次窯体〉

第3次窯体は、淡茶黄色粘質土及び淡赤色粘土を間層とし、第2次窯体の約0.15m上位に設けられている。床面及び両側壁の保存状態は比較的良好であったが、床面は第1次・第2次窯体に比べてかなり複雑である。

この第3次窯体の床面は消失した際に露呈していた断面より検出していった訳であるが、奥に向かって実長2.3mの地点で床面である淡灰青色粘土層（ガラス状）がとぎれている。当初、天井部との関連が予想されたが、第1次・第2次窯体及び間層、そして上位より淡茶黄色粘質土・淡灰青色粘土・淡茶黄色粘質土・淡赤色粘土という層位などから、この関連は否定された。ということは、この層は床面ということが考えられ、第1次・第2次窯体のような焼成部へのつながり部分が剥離したものかは疑問を残すものの不詳と言わざるを得ない。

2. 灰原

灰原は1号窯に続く第一灰原と、窯体の検出はできなかったが、灰原のみの第二灰原とが確認された。この二つの灰原も全体を把握できなかったが、相当量の遺物を検出するに至った。

〈第一灰原〉

第一灰原は、1号窯の焚口・前庭部が消失しているため、焚口・前庭部から灰原へ続く箇所は明瞭でないが、現存する1号窯最下部より下方へ実長4.0mの地点から確認さ

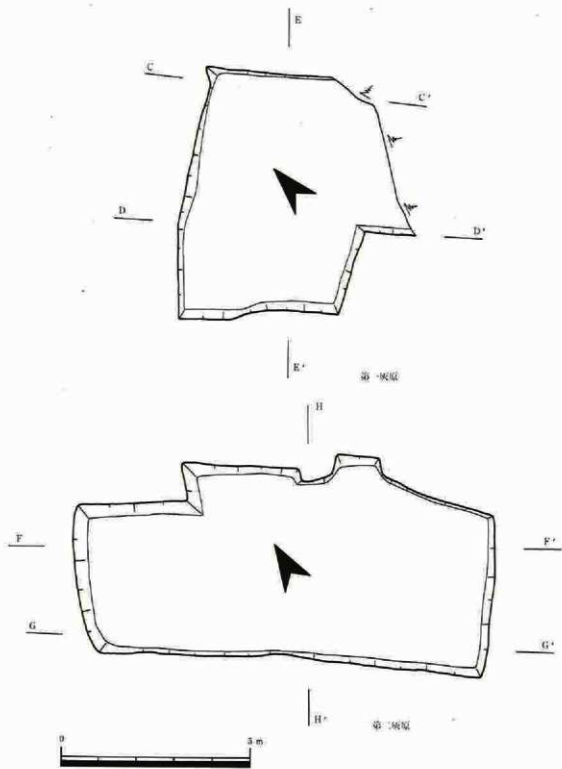


图5 第一灰原·第二灰原结构图

れた。この灰原を1号窯体主軸方向に上方から1～3区、これと直交する等高線方向に西よりA・B区とし、両者合わせて6区画に地区割を行った。これらの区画と遺物出土量との関係において1区ではほとんど出土せず、A・B両区とも2・3区から多量の出土を認め、またA区とB区を比べた場合、B区の方が多量であるという結果が出た。

そして層位の状況では、遺物包含層は特に第4層（黒褐色粘土層）と下層である第5層（暗褐色粘土層＝レンガ色土）の2層に限られている。第4層は表土より0.2～0.4mで検出でき、厚さは最大で約0.4mを測り、東側（B区）部分の方が堆積層も厚い。第5層は第4層下方に堆積し、厚さは約0.1～0.3mを測り第4層よりも多量の遺物が出土した。また、これら2層はA・B両区にまたがっており、土層観察用断面（E—E'断面）を見る限り、上限は2区にまで及ぶ。

これらの結果から、第一灰原の全容は明らかではないが、その規模は東西約5.8m以上、南北約3.4m以上の規模をもつことが推察される。そしてB区の方が遺物包含層の堆積が厚く、出土量も多いことなどから、焚口・前庭部は消失しているけれども、前庭部がやや左に偏しており残灰や製品の投棄が比較的右下方に向かって行なわれていたのではないかと推量するものである。

〈第二灰原〉

2号窯については消失していたので第二灰原は灰原のみの調査となったため、全体を把握できなかった。従って窯全体の正確な位置については断言できないが、この第二灰原の検出状況などから推察して1号窯の左上方に位置し、1号窯とそう大差のない主軸を保っていたのではないかと考えられる。

層位において遺物包含層は第4層（黒色土層）に限られ、第二灰原出土遺物のほとんどがこの層から出土する。第4層は浅いところでは表面直下、深いところでも0.4mで検出でき厚さは最大で0.55mを測る。灰原上方においては、中央部及び東側よりのみ部分的な堆積がみられるが、下方ではほぼ全域に認められ、中央部から西側にかけて厚く堆積している。しかし、出土量は厚い堆積層をみる西側よりも東側の方が比較的多い。

窯体も消失し、灰原も全域を調査できなかったが、第二灰原は東西約11.0m以上、南北約4.0m以上の規模を有していたと思われる。

註

①石川恒太郎「須惠器窯址考」（『考古学雑誌』第34巻第6号 1944）

Ⅳ. 出土遺物

(1号窯)

1号窯の出土遺物については出土量が少なく、Ⅲ章の検出遺構の項で先述した4点が主なもので、いずれも置台の可能性が高いと考えられる遺物であった。

(第一灰原)

杯蓋

A類 (A₁—図版10・11、A₂—図版5・12)

天井部が比較的丸味をもつもので、天井部高はつまみ高の3倍以上を計る。口縁部は内傾するもの(A₁)と凹状を成すもの(A₂)がみられる。つまみは偏平な擬宝珠様を呈し、天井部外面は $\frac{1}{4}$ 程度で回転ヘラ削り調整、内面も $\frac{1}{4}$ 程度の不定方向のナデ調整が施されている。

B類 (B₁—図版13・14・15、B₂—図版9・16)

天井部の上面が比較的平らで、天井部高はつまみ高の2倍前後を計る。口縁部はA類同様内傾するもの(B₁)と凹状を成すもの(B₂)に分かれる。つまみは比較的偏平な擬宝珠様を呈する。天井部外面は $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{2}$ 程度の範囲で回転ヘラ削り調整で、内面も $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{2}$ 程度の不定方向のナデ調整が施されている。

C類 (C₁—図版17、C₂—図版18)

天井部から上方へなだらかに立ち上がり、鈍く屈折・外反し口縁に至る。縁部は直下のもの(C₁)と凹状を成すもの(C₂)に分かれる。つまみは偏平な擬宝珠様を呈し、天井部外面の回転ヘラ削り調整は $\frac{1}{4}$ 前後の範囲に及ぶ。内面のナデ調整は $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{2}$ 程度の範囲に施されている。

杯身

A類 (図版19・20・21・37・38・39・40)

平坦な底部面から体部及び口縁部が内湾気味に外上方に立ち上がるもの。口縁端部は丸く収まる。底部外面はヘラ切り・回転ヘラ切りの未調整で、内面には一定方向のナデを施す。体部は内外面とも回転ナデを施している。

B類 (図版22)

平坦な底部面より二次底部面を介して体部へ至るもの。端部は丸く収める。底部外面は回転ヘラ削り調整が施され、内面には中央部に一条の一定方向のナデを残す。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施す。

C類 (C₁—図版23・24・41・42、C₂—図版25~32、43~50)

平坦な底部面から体部・口縁部が外上方にのびるもの。底部からはっきりと屈折して体部に至るもの(C₁)と底部面から丸味をおびて体部に至るもの(C₂)に分かれる。底部外面は回転ヘラ削りで未調整のものが多く、回転ヘラ削り調整を施すものは少ない。内面中央に一条のナデを施す。底部・体部は内外面とも回転ナデが施されている。

D類 (図版33~36、51~62)

形態はC類に酷似しているが、口縁部が外反気味に外上方へのびるもの。底部外面は回転ヘラ削り未調整で内面中央に一条のナデを施す。底部内面及び体部内外面ともに回転ナデ調整を施す。

有台杯身

A類 (図版63~68、73~83)

高台が底部やや内側に貼付されているもの。平坦な底部面から丸味をおびて直接体部に至る。口縁端部は丸く収まるものとやや尖り気味に収まるものがある。高台は直立気味のものとのハの字形に開くものがあり、接地面は平らか内端面で接地する。底部外面はほとんどが回転ヘラ削り調整が施され、内面は不定一定方向のナデが残る。体部は内外面ともに回転ナデ調整である。

B類 (図版69~72、84~91)

高台が底部端に貼付されているもの。平坦な底部面から直接体部に至り、口縁部はどちらかといえば内湾気味である。端部はやや尖り気味のものや丸く収まるものがある。高台はハの字形に開くものが多く、接地面は平らか内端面で接地する。底部外面はほとんど回転ヘラ削り調整で、内面は不定一定方向のナデを施す。体部は内外面ともに回転ナデ調整。

變 口縁部が外上方へ直線的にのびるものと外反するものに大別できる。

A類 (図版92・93・95・97・101・103・104)

口縁部が外上方へ直線的にのびるもので、肩部・体部は比較的なだらかに下がる。また体部に把手を付すものもみられる(図版104)。調整は外面では平行叩きの後ほとんど

スリケシ・半スリケシ調整などの二次調整が施される。またカキ目を施すものも認められる。内面では同心円文痕が残る。

B類 (図版94・96・98・99・100・102)

口縁部が外反するもので形態はA類に類似する。調整は外面では平行叩きの後スリケシ・半スリケシ調整が施され、内面では同心円文又は円弧叩きの後に半スリケシ調整を施すものもある。

長頸壺 (図版105・106)

口頸基部は細く直立または内湾気味にのび、口縁部は大きく外上方へ開く。端部は丸く収まり、端部口径が口頸基部径より大きくなる。口頸部に2条の沈線を有するが、図版105の長頸壺は並列に、図版106の方は間隔をあけて施されている。また図版105の長頸壺については肩部下方にも一条の沈線を有する。肩部はやや張り気味で、底部はハの字形に開き内端面で接地する。

体部及び底部外面は回転ヘラ削り調整が施され、口頸部・高台は回転ナデ調整である。

短頸壺 (図版107・108)

長頸壺同様にあまり検出されておらず、また完形ではないので不明な点が多いが、底部からなだらかに外上方へのび丸味をおびた屈折で肩部へと至る。肩部はやや張り気味である。口頸は短く外上方へのび、端部は丸く収まるものと尖り気味に収まるものがある。また図版108の短頸壺の体部内面には梅描文が施されている。調整は全体的に回転ナデ調整を施す。

平瓶 (図版117)

ほぼ偏平な体部天井部の中心から大きく偏した一方に外湾気味に大きく開いた口頸部を付す。口縁端部は尖り気味に収まり、口頸部中央上方に一条の沈線を有する。肩部は張り気味で稜を成し、偏平な胴を呈する。底部及び体部外面の下方は回転ヘラ削り調整が施され、体部天井内面の接合部にカキ目が残る。

環状瓶 (図版118)

口頸部が消失しているが、平坦な底部から環状を呈して口頸部に至る。肩部の耳は認められない。各面はほぼ平らで、4枚の板状粘土を接合したのではないかと考えられる。外面は回転ヘラ削り調整を施すが、部分的にハケ目・ナデを施す。内面は接合部分にか

キ目調整を施す。

鉢 (図版119・120)

摺鉢様の器形を有し、底部に肥厚な台状のようなものを伴うが、図版119の鉢の底部は不安定を呈している。器高は比較的高く外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部付近でラッパ状に大きく開く。口縁端部は尖り気味に収まる。体部径より口径の方がはるかに大きくなる。2点の両鉢とも底部外面に何かで刺突したような小孔が多数認められる。ただし底部内面に貫通はしていない。

〈第二灰原〉

杯蓋

A類 (図版128~132)

第一灰原の杯蓋A類に類似し、天井部高はつまみ高の3倍以上を測るもの。口縁部は内傾するもの凹状をなすものに分かれるが、凹状をなすものには内傾する形態も兼ね備えるものもある。つまみは比較的偏平な擬宝珠様つまみを有する。天井部外面は $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ 程度で回転ヘラ削り調整、内面も $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ 程度のナデ調整を施す。

B類 (図版133~141)

第一灰原の杯蓋B類に類似し、天井部高はつまみ高の2倍前後を測るもの。口縁部は凹状をなして内傾するものがほとんどであるが、垂直におちるものもある。つまみは比較的偏平な擬宝珠様つまみを有する。天井部外面は $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ 程度で回転ヘラ削り調整、内面も $\frac{1}{4}$ ~ $\frac{1}{2}$ 程度のナデ調整を施す。

C類 (図版142)

第一灰原の杯蓋C類に類似するものである。口縁部はやや内傾する。不整形なつまみを有する。天井部外面は回転ナデ調整で、内面は丁寧なナデが施されている。

杯身

A類 (図版145~148)

第一灰原の杯身A類に類似するもの。口縁端部はやや尖り気味に収まるものが多い。底部外面は回転ヘラ切り未調整で、内面中央に一条のナデが残る。体部は内外面ともに

回転ナデ調整を施している。

C類 (C1—図版149~152、C2—図版153~158)

第一灰原の杯身C類に類似し、第一灰原同様底部面からはっきりと屈折して体部に至るもの(C1)と、丸味をおびて体部に至るもの(C2)に大別できる。口縁端部は丸く収まるものとやや尖り気味に収まるものがある。底部外面は回転ヘラ切り未調整がほとんどであるが、ヘラ切りも数点認められ粘土紐痕を明瞭に残すものもある。底部内面ではほとんど中央に一条のナデが施されている。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施している。

D類 (図版159~164)

第一灰原の杯身D類に類似するものである。口縁端部は丸く収まるものと尖り気味に収まるものに分かれる。底部外面はヘラ切り・回転ヘラ切りによりともに未調整である。底部内面では中央に一条のナデが施されている。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施している。

有台杯身

A類 (図版169~172)

第一灰原有台杯身A類に類似するものである。平坦な底部面から直接体部に至り、口縁端部はやや尖り気味に収まる。高台はハの字形に開くものが多く、接地面は内外端及び平らに接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整を施し、内面はナデを施す。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施す。

B類 (図版173~180)

第一灰原有台杯身B類に類似するものである。平坦な底部面から丸味をおびて立ち上がる。口縁端部は尖り気味に収まる。高台はハの字形に開き、接地面は平らか内端面で接地する。底部外面は回転ヘラ削り調整、或いはヘラ切り未調整で粘土紐痕を明瞭に残すものもある。底部内面はほとんどがナデを施すが、わずかにみがきを施すものも認められる。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施す。

甕 (図版181)

第一灰原の甕A類・B類とは違い、口縁部は内湾気味となる。肩部についてはなだらかに外下方に下がる。調整は第一灰原出土のものと同様、外面は平行叩きの後一部について半スリケシを施す。内面には同心円文痕が残る。

長頸壺 (図版182)

第一灰原の長頸壺に類似し、口頸部に2条の沈線を有し、口縁端部径が頸基部径よりも大きくなる。口頸部内面及び外面の一部に自然釉が残る。調整は口頸部内外面ともに回転ナデ調整が施されている。

短頸壺 (図版183~186)

第一灰原同様、口頸部は全体的に短く外上方へのびるものと、内傾気味のものがある。肩部はあまり張らないが、張り気味のものも僅かに認められる。また沈線が口頸部中央に認められるものと、肩部上方に認められるものがある。調整は内外面ともに回転ナデ調整を施す。

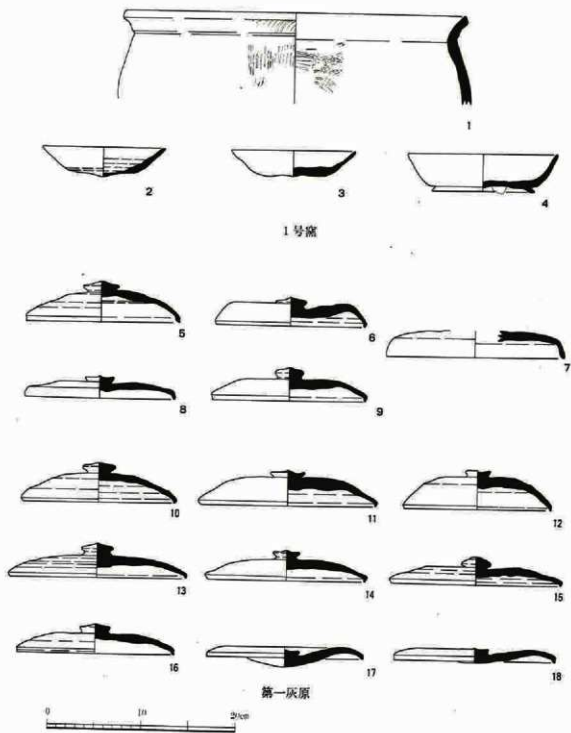


图7 1号窟·第一灰原出土物实测图

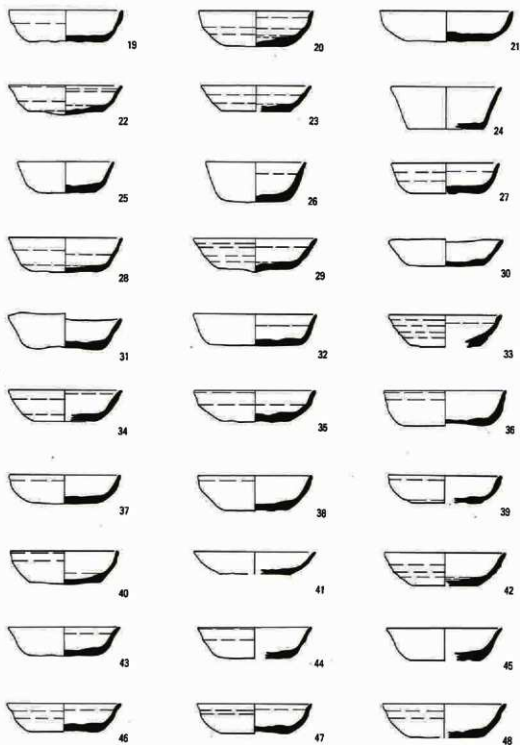


图8 第一灰原出土遗物实测图

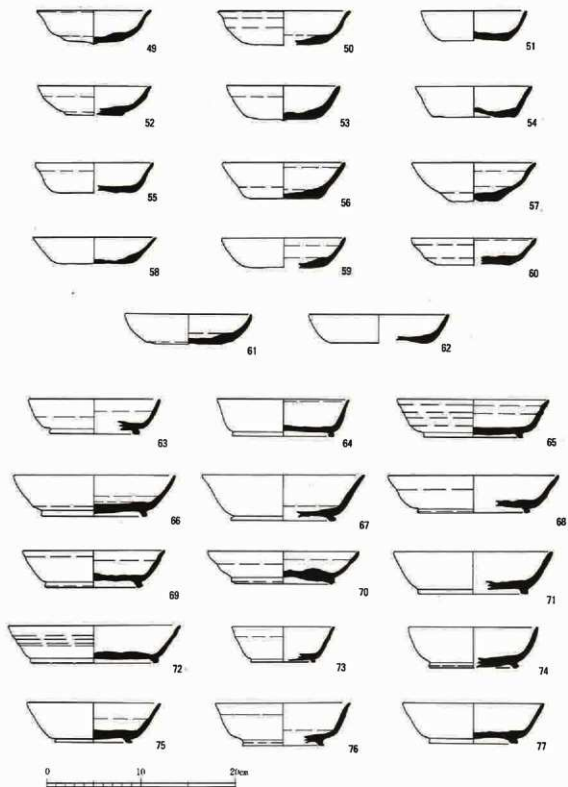


图9 第一灰原出土物实测图

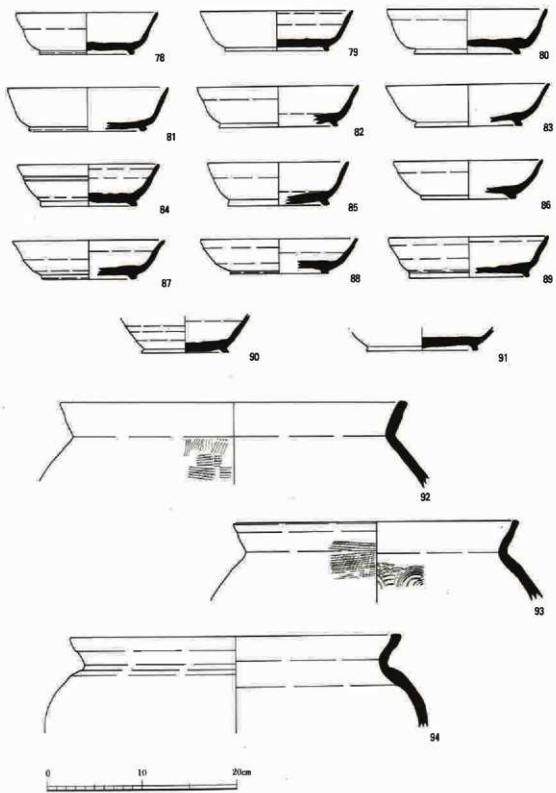


图10 第一灰原出土遗物实测图

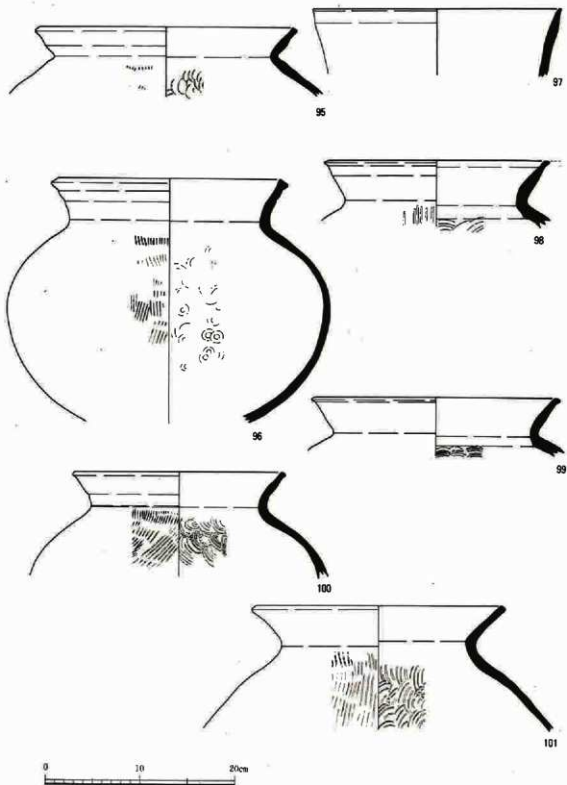


图11 第一灰原出土遺物実測図

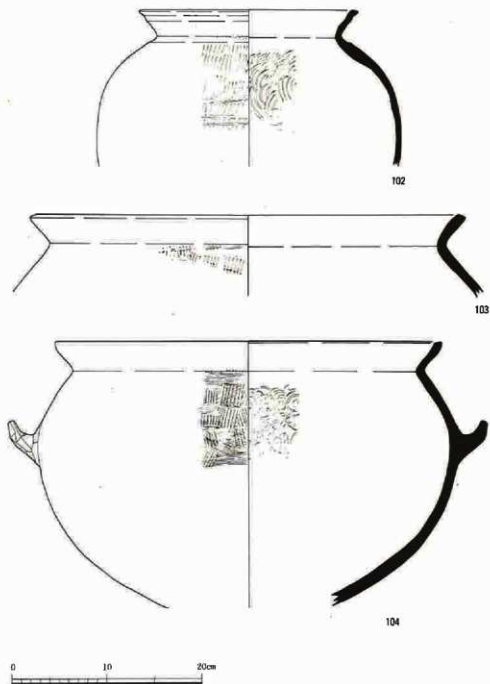


图12 第一灰原出土遺物実測図

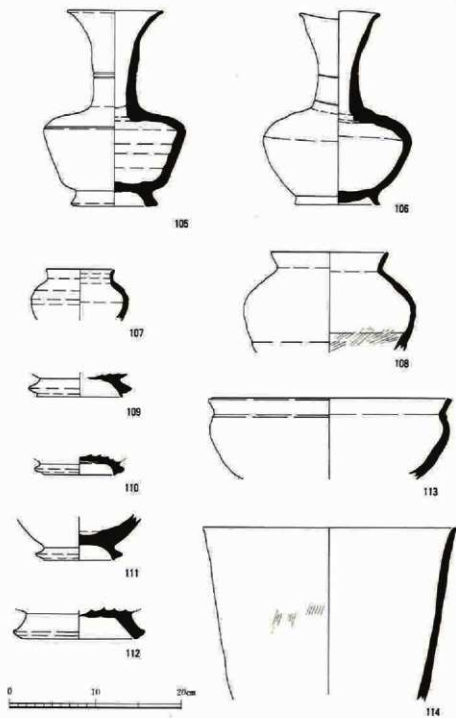


图13 第一灰原出土遗物实测图

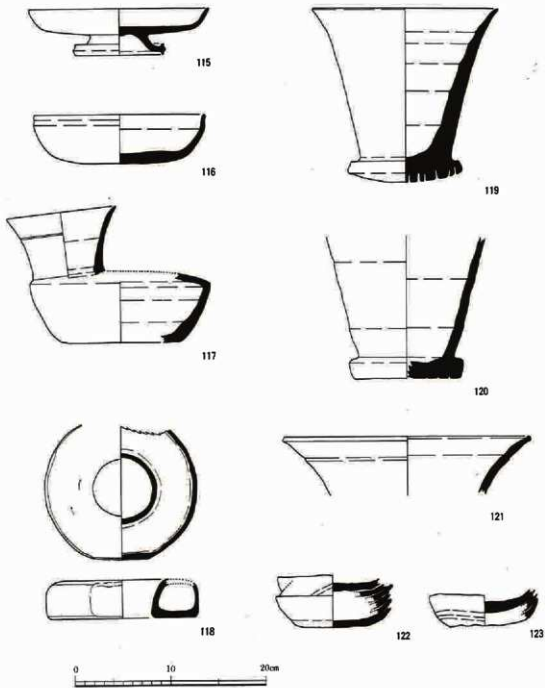


图14 第一灰原出土遺物実測図

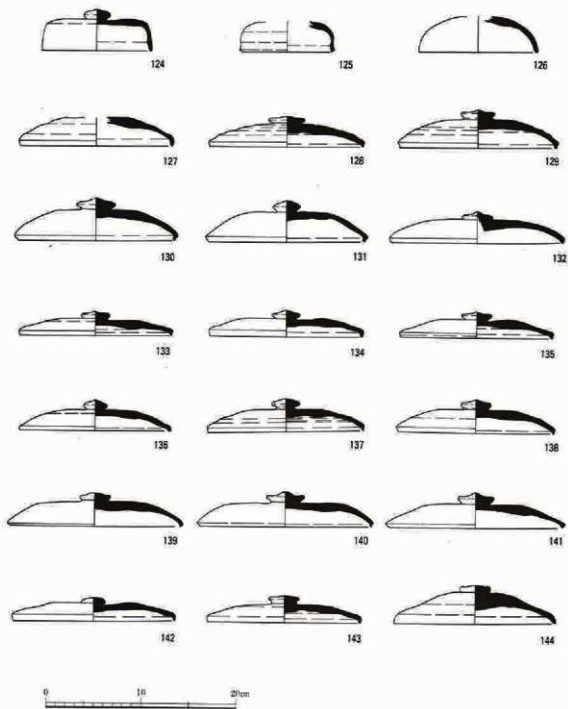


图15 第二灰原出土器物实测图

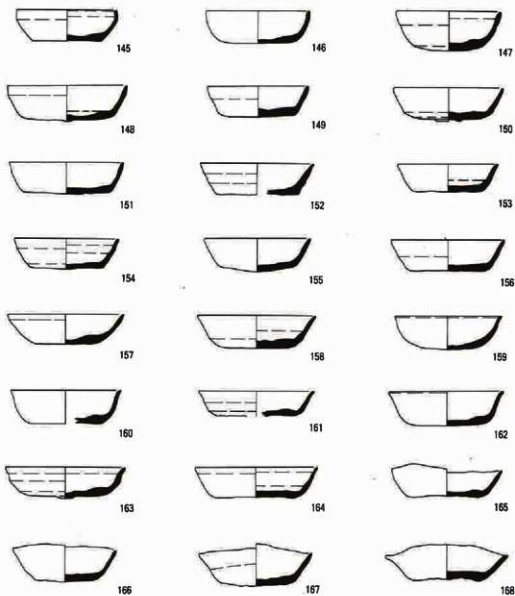


图16 第二灰原出土遺物実測図

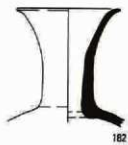
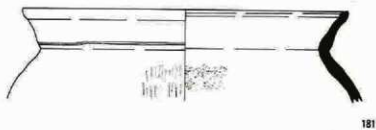
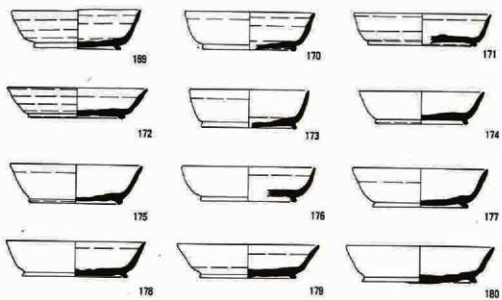
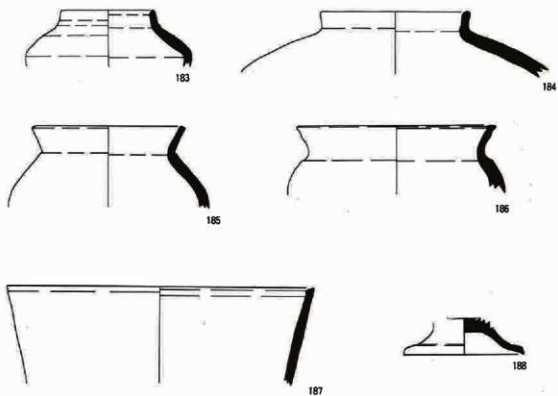
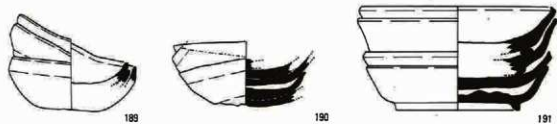


图17 第二灰原出土器物实测图



第二灰原



試掘

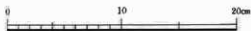


图18 第二灰原・试掘出土遺物実測図

V. お わ り に

以上のように、今回の調査によって検出された遺構は、須恵器窯跡1ヶ所（1号窯）及び灰原（第一灰原・第二灰原）である。この章では、菅江窯跡の時期・規模などをまとめてみたい。

今回の調査では、上に記したわずかな遺構検出にとどまったが、窯体が検出された同丘陵斜面には第二灰原からもう一つの窯体が存在していたと考えられ、少なからず2つの窯体の存在は確実視できる。また、今回の調査地の南に位置する舌状丘陵地北斜面にも、少量の須恵器片の散布をみることから、この地にも窯が存在していたのではないだろうか。つまり、北東を口とした三方丘陵地斜面において窯が構築されていた可能性は高いと思われる。そして、それら丘陵地に狭まれたテラス状台地には、横山丘陵から2本の支流が流れ込み、また多量の須恵器片を採集できるなど、工房跡の可能性を秘めているようにも推測できる。しかしながら、調査地も狭く、消失した部分があった今回の調査では、これら規模の全容についてはあくまでも推察の域を脱し得ないことは言うまでもない。

では、これら検出された遺構の時期について考えていくこととする。

まず生産遺跡関係との対比においては、『陶邑古窯址』を参考にすると1号窯・第一・第二灰原から出土した蓋は、内面のかえり消失以後のものであるから、田辺氏のⅣ期、^①中村氏のⅣ型式に該当し、8世紀前半から8世紀後半に比定できる。

一方、消費地関係との対比については、『平城宮跡』などを参考に考えてみる。本窯跡の出土遺物は、杯身（埴）・蓋・鉢・提瓶・平瓶などバラエティに富む器種構成であるが数量的には杯身（埴）・蓋が多数を占めている。蓋については、そのほとんどが擬宝珠つまみを有し、つまみに対する器高は低く、外面の屈曲部・端部の稜はあまり鋭くない。また、杯身（埴）については有台・無台の別があるが、有台杯身（埴）の高台は、短く底端部から外方への踏んばりはさほど強くない。これらの遺物とよく似ているものが、平城宮跡6ABO区土壌SK 219から出土している。SK 219は「平城宮Ⅳ」に属するとされており、その年代は天平宝字6年（762）銘の木簡から、天平宝字末年（763）頃と考えられている。^②

これらのことから、本窯跡は奈良時代前半から後期前半にかけての時期に等置し得るのではないかと考える。

また、町内には本窯跡をはじめとして、西谷遺跡・烏脇遺跡・深沢谷遺跡・今中遺跡などの窯跡が周知されている。これらの中には所在不詳な遺跡もあるが、これらの遺跡のほとんどが本遺跡と同じ横山丘陵沿いに点在するのである。そして、西谷遺跡については本遺跡の下限頃から以降の須恵器片が採集されている。

つまり、奈良時代から平安時代にかけて、菅江遺跡を中心とした横山丘陵一帯が須恵器の一大生産地である様相を呈していたのではないだろうか。

以上で本報告書のまとめとするが、遺構・遺物の検証にも深慮を欠いた感があり、また推論が多く、今後の調査・研究に期すところは大きい。先学諸氏の御批判を御願ひし、まとめにかえたい。

註

- ①田辺昭三「陶邑古窯址群Ⅰ」平安考古学クラブ 1966
中村 浩「陶邑Ⅰ」大阪府文化財調査報告書
- ②奈良国立文化財研究所編「平城宮発掘調査報告書Ⅱ」

表1 出土遺物観察表

調査区	器形	図録番号	法量 (cm)	形態の特徵	特徴	破、形の特徵	備	考
1	甕	1	口径: 36.0	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部から胴部にかけて現存する。 ○製品産石と思われる。 ○体部及び肩部はなだらかな輪を呈し、口縁部は短く、胴部から大きく外反する口縁を有する。 ○口縁部は外面がややよくらみ厚みをもっている。 ○体部及び肩部外面に平行引き目、内面に同心円文飾。 ○外面口縁部に繋ぎ文が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部から胴部にかけて現存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部内外面とも横ナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 生焼 色調: 淡赤褐色 口クロ: 右方向 	
				<ul style="list-style-type: none"> ○ややよくらみをもった底部から段をなし、大きく外上方へ立ち上がる。 ○口縁部は丸く収める。 ○底面内面は粘土層巻き上げにより段を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 生焼 色調: 淡赤褐色 	<ul style="list-style-type: none"> ○体部は内外面とも横ナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 生焼 色調: 淡赤褐色 	
				<ul style="list-style-type: none"> ○比較的平坦な底部よりゆるやかに外上方へ立ち上がる。 ○口縁部はやや内折し、肩部は丸く収める。 ○底面内面は粘土層巻き上げにより段を有し、底部と体部の接合部分に僅かな亀裂が残る。 ○体部から口縁にかけての一部分は黒漆と同色を呈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 灰白色 口クロ: 右方向 	<ul style="list-style-type: none"> ○体部は内外面とも横ナデ調整。 ○底部外面はヘラ削り調整、内面は一定方向へのナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 灰白色 口クロ: 右方向 	
2	有台体身	4	口径: 15.8 高台径: 10.8 器高: 4.0	<ul style="list-style-type: none"> ○やや内傾しながら立ち上がり、口縁部は丸く収める。 ○高台は底部より少し内に入り、外方へハの字形に膨らみがある。接合面は平坦であったが、高台に使用されたときみえて、かなり不定形である。 ○底部外面に粘土層の原形を残す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	<ul style="list-style-type: none"> ○体部、口縁部は横ナデ調整。 ○底部内面は不定方向不連続のナデをおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	
				<ul style="list-style-type: none"> ○天井部中央にやや平坦な縦玉縁溝つまみを設けず。 ○胴体をおびた水胴部で、口縁部は下方へ内傾したのち小さく外反し、はつきりとした縁をなす。 ○天井部底部に口クロ回転に垂直に引いたヘラの痕を残す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 淡赤褐色 口クロ: 左方向 	<ul style="list-style-type: none"> ○天井部外面が三分の1回転へラ削り調整で、残りは回転ナデ調整。 ○天井部内面三分の2不定方向のナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 淡赤褐色 口クロ: 左方向 	
3	甕	第2層	口径: 15.6 器高: 3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○やや中央部が突出した扁平な縦玉縁溝つまみを有し、天井部中央より上方へ強く傾折、外反したのち、なだらかに下方へおちる。 ○口縁部は内傾する。 ○天井部外面の強く傾折する部分に2層の粘土層が設けらる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	<ul style="list-style-type: none"> ○天井部外面が三分の2回転へラ削り調整で、残りは回転ナデ調整。 ○内面は三分の2ナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	
				<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	<ul style="list-style-type: none"> ○胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	<ul style="list-style-type: none"> ○天井部外面が三分の2回転へラ削り調整で、残りは回転ナデ調整。 ○内面は三分の2ナデ調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色 	

種別	形状	切取番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形の特徵	備考
新 一 灰 壁	柱礎 (第4層)	7	口径：18.8 残存高：(2.9)	○平坦な頂上部よりภายใน下方におちる。 ○断面の色調は天井部2分の1から口縁部までやや暗みずき色を呈している。	○天井部外面の3分の2は回転へう磨り調整。 ○内面は不定方向のナゾ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良 色調：淡灰褐色
		8	口径：15.8 器高：2.3	○天井部中央のつまみは扁平というより、縁部が高く、内におちこんでいる。 ○天井部中央より上方へゆるやかに上がり、ゆるやかに外反して、端部で短く下方へ屈曲する。縁は比較的鋭い。 ○天井部外面にへう記号のような痕跡を残し、特に、外面端部には刺突文を残す。また断面は天井部2分の1から、口縁部まで暗みずき色を呈している。	○天井部外面の3分の2以上は回転へう磨り調整で、内面2分の1は不定方向のナゾ調整。残りは回転ナゾ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡灰褐色
		9	口径：16.2 器高：3.6	○縦立縁つまみは右し、やや平坦な天井部より下方へ2だらかな輪をもつ。 ○口縁端部はやや内方へ屈曲する。	○天井部外面2分の1は回転へう磨り調整し、残りは回転ナゾ調整。 ○天井部内面2分の1は「冪」なまがき調整がされており、残りは回転ナゾ調整である。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：淡灰褐色
		10	口径：16.2 器高：4.1	○ほぼ平坦な縦立縁つまみをもち比較的直縁を呈する。 ○天井中央部の平距面からなだらかに屈折しており、その地点でやや鋭い縁をもつ。 ○口縁部は短く、やや内傾している。 ○天井部内面にへう記号のような2条平行のへう痕が残る	○天井部外面2分の1は回転へう磨り調整し、残りの3分の2はナゾ調整。残りは回転ナゾ調整である。 ○内面の2分の1は不定方向のナゾ調整。残りの3分の2は回転へう磨り調整。残りは回転ナゾ調整を施す。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：淡灰褐色
		11	口径：18.5 器高：3.7	○中央部及び縁部の高い縦立縁つまみが取付され、天井部平距面から下方へなだらかな輪をもつ。 ○口縁部は短く、内傾している。 ○天井部外面の平距面下方に2つの指し痕を残す。	○天井部外面2分の1は回転へう磨り調整で、残りは回転ナゾ調整。 ○内面2分の1は不定方向のナゾ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：明灰褐色 ロクロ：右方向
		12	口径：15.5 器高：4.1	○縁部の高い縦立縁つまみを取付し、全体に丸味をおびている。 ○口縁部は短く、内傾したのち、縁部を小さくつまむ。 ○内外面ともに部分的にかなり黒色を呈する。	○天井部外面2分の1は回転へう磨り調整で、残りは回転ナゾ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良 色調：黒灰褐色
		13	口径：16.7 器高：3.2	○扁平な縦立縁つまみをもち、器高はあまり高くない。 ○天井部外面に重ね焼きを施した跡があり、その外方にのみ自然輪が残る。 ○口縁部はやや内傾している。	○天井部外面3分の2は回転へう磨り調整し、残りは回転ナゾ調整。 ○内面3分の2は不定方向のナゾ調整。	胎土：不良 焼成：良好 色調：黒灰褐色 ロクロ：右方向

調査区	器形	器高 器幅	口径 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
第 一 区 原	杯身 (第5層)	14	口径: 19.0 器高: 3.7	○天井部中央に縦意珠排つまみを貼付し、器高は低い。 ○口縁部は短く、かすかに内傾する。 ○天井部外面平坦部端に2条の沈線がある。	○天井部外面2分の1は丁寧な回転へう削り調整。 ○内面2分の1はみがき調整で、残りは回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 淡黒灰色 ロクロ: 左方向
				○中央がふくらみ丸味をおびた蓋玉珠排つまみを有する。 天井部中央はやや上からおしつぶされた部がある。 ○天井部中央から上方へゆるやかに屈折し、下方へやや外反し段をなして、なだらかに内傾する。 ○口縁部は短く、内傾する。	○天井部外面3分の2不定向ナゲ調整。 ○内面3分の2不定向ナゲ調整。	胎土: 不良 焼成: 良好 色調: 淡黒灰色 ロクロ: 右方向
				○扁平な縦意珠排つまみを貼付し、器高は比較的低い。 ○口縁部は短く、少し内傾し端部を外方へつまみ。 ○天井部外面にはつままりとした縁をもつ。 ○天井部外面の平坦部からなだらかに下方へ内傾する。数点の指止痕と思われる跡を残す。	○天井部外面2分の1は回転へう削り調整。 ○内面2分の1は丁寧なナゲ調整が施こされ、残りは回転ナゲ調整である。	胎土: 不良 焼成: 良好 (変形) 色調: 淡黒灰色 ロクロ: 左方向
				○全体的にかなり変形しており、上から押しつぶされた感がある。 ○天井部外面で色調がはっきり分かれており、二次焼成の跡などが認められる。(器中の可能性大)	○天井部外面3分の2で不十分な回転へう削り調整。 ○内面2分の1ナゲ調整で、残りは回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 (変形) 色調: 茶灰色 ロクロ: 左方向
				○扁平というより縁が高いつまみを有する。 ○天井部中央から上方へゆるやかに屈折し、なだらかに外反する。 ○口縁はほぼ垂直に下る。	○天井部外面3分の2は回転へう削り調整し、残りは回転ナゲ調整。 ○内面3分の2はナゲ調整を施す。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 淡黒灰色 ロクロ: 右方向
杯身 (第4層)	19	口径: 12.0 器高: 3.2	○平坦な底面からやや丸味をもって立ち上がり、度内凹したの外反し、口縁部でまっすぐたる上がる。口縁部下方で鋭い縁をなす。 ○端部は丸く収める。	○底面外面は回転へう切り未調整で粘土星が明瞭に渡る。 ○底面内面中央部に一定方向のナゲを施す。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 暗黒灰色 ロクロ: 右方向	
			○ほぼ平坦な底面より外上方になだらかに立ち上がり、体部中央で屈折し、上方へ内傾する。屈折するところで縁をなす。口縁部は丸味をおびている。	○底面外面は丁寧なナゲが施されている。他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 色調: 灰黒白色 ロクロ: 左方向	
杯身 (第4層)	20	口径: 12.1 器高: 3.7	○ほぼ平坦な底面より外上方になだらかに立ち上がり、体部中央で屈折し、上方へ内傾する。屈折するところで縁をなす。口縁部は丸味をおびている。	○底面外面は丁寧なナゲが施されている。他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 色調: 灰黒白色 ロクロ: 左方向	

品名	形状	測定値	形態	特徴	成形特徴	備考
杯身 (薄4層)	21	口径：14.0 器高：3.2	○平坦な底面より外上方に大きく立ち上がり、体部上方でよくらみみせる。口縁部は小さく外反する。端部は尖り気味で取まる。	○平坦な底面より外上方に大きく立ち上がり、体部上方でよくらみみせる。口縁部は小さく外反する。端部は尖り気味で取まる。	○底面外周は回転へら切り後、一部でナデ調整。 ○底面内周中央部に一定方向のナデが残る。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：暗黄灰色 ロクロ：左方向
	22	口径：12.0 器高：3.1	○基本的な底面から二次底面を介して体部へと立ち上がる。体部では斜上方にふくらんだ後、口縁で小さく外反する。端部は丸く取められている。	○基本的な底面から二次底面を介して体部へと立ち上がる。体部では斜上方にふくらんだ後、口縁で小さく外反する。端部は丸く取められている。	○底面外周は回転へら削り調整の後、端部の一部でナデが施されている。 ○底面内周中央部に一定方向のナデが残る。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
	23	口径：11.8 器高：2.7	○平坦な底面から外上方へのびる体部を右し、口縁部はわずかに外反気味である。端部はやや丸味をおびている。	○平坦な底面から外上方へのびる体部を右し、口縁部はわずかに外反気味である。端部はやや丸味をおびている。	○底面外周は回転へら削り調整で、他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
	24	口径：11.6 器高：4.4	○底面はほぼ平ら（ややふくらみ気味）で体部上方へ立ち上がる。口縁部は小さく外反し、端部は少し尖り気味である。 ○底面中央は竜胆的なものか不明だが、孔を穿った様な割れ口を有する。（器体全体に小さなくぼみが多量存在する。器台の可断性大）	○底面はほぼ平ら（ややふくらみ気味）で体部上方へ立ち上がる。口縁部は小さく外反し、端部は少し尖り気味である。 ○底面中央は竜胆的なものか不明だが、孔を穿った様な割れ口を有する。（器体全体に小さなくぼみが多量存在する。器台の可断性大）	○底面外周は比較的に丁寧な回転へら削り調整。 ○底面内周中央部に一定方向のナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：茶灰色 ロクロ：右方向
	25	口径：10.2 器高：3.3	○平らな底面より外上方へまっすぐに立ち上がる。口縁部は丸く取まる。 ○底面外周には部分的に粘土小塊が付着している。	○平らな底面より外上方へまっすぐに立ち上がる。口縁部は丸く取まる。 ○底面外周には部分的に粘土小塊が付着している。	○底面外周は回転へら切り、底面外面周部に不定方向のナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良（変形） 色調：暗黄灰色 ロクロ：右方向
	26	口径：10.6 器高：4.2	○平坦な底面より底面に体部へ立ち上がるもの、底面よりはほぼ直線的に外上方へ立ち上がる。口縁部で小さく外反し、端部は比較的に丸味をおびている。	○平坦な底面より底面に体部へ立ち上がるもの、底面よりはほぼ直線的に外上方へ立ち上がる。口縁部で小さく外反し、端部は比較的に丸味をおびている。	○底面外周は粗雑な回転へら削りで、一部の底面と体部の接点部に段差を有する。 ○底面内周中央部に一定方向のナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良（変形） 色調：灰黄白色 ロクロ：右方向
	27	口径：11.4 器高：3.2	○平らな底面より、外上方へやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は丸く取まる。	○底面外周は回転へら削り未調整。 ○他は回転ナデ調整。底面内周の一部、ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向	

製品名	品名	型番	法 量 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
第 一 区 区	杯分 (第4層)	28	口径：12.0 器高：3.7	平型な底面を有し、ややふくらみをもって立ち上がるこの地点で傾い線をもつ。口縁端部は丸く取められている。 ○底面外面端と側壁との境に多少の段を有する。	○底面外面はかなり丁寧なへう削り調整であるが、左記の段をなすころは一部粗雑なナデが認められる。 ○底面内面中央の一部に一定方向へのナデが残る ○他は回転ナデ調整が施されている。	胎土：良好 焼成：不良(変形) 色調：黒灰色 ロクロ：右方向
		29	口径：13.0 器高：3.6	底面中央がやや突出した深みのある底面から、丸味をおびて立ちあがる。 ○口縁部はほぼ直線的で端部は丸味をおびて取まる。	○底面外面は粗い回転へう削り、底面と側壁の境界部分は口縁方向へのナデが残されている ○底面内面中央部には一定方向のナデが残る。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
		30	口径：12.2 器高：2.8	平らな底面から、ゆるやかな角度で外上方に立ちあがり、口縁に至る。 ○口縁部はやや内湾状で端部は丸く取める。 ○かなり大きく変形している。	○底面外面は丁寧なへう削りがされており、底面端部は部分的にナデを施す。 ○底面内面中央部に一定方向のナデを施す。	胎土：やや不良 焼成：やや不良(変形) 色調：黒灰色 ロクロ：右方向
		31	口径：12.0 器高：3.6	上記30の杯身に近似しているが、30より丸味をおびて立ち上がり、口縁部はやや外反する。	○底面外面は回転へう削り調整であるが、底面端の体部との様にナデを施す。 ○底面内面中央部に一定方向のナデを施す。	胎土：良好 焼成：やや不良(変形) 色調：暗灰黄色 ロクロ：右方向
		32	口径：13.0 器高：3.3	平型な底面より、丸味をおびて、外上方に立ちあがる。口縁端部は丸く取める。	○底面外面は比較的丁寧なへう削りがされており、端部の一部で口縁に向かってのナデが残る。 ○底面内面中央部に一定方向のナデが残る。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良(変形) 色調：外、暗灰黄色 内、黒灰色 ロクロ：右方向
		33	口径：12.0 器高：3.1	やや丸味をもった底面からなだらかに立ち上がり、わずかに内湾したのち、口縁部で小さく外反する。口縁端部は丸く取める。 ○底面と体部の境にはっきりとした段をもつ。	○底面外面は、回転へう削り調整。 ○他は回転ナデ調整が施されているが、体部外面は粗雑でナデの残存はつきり残す。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
34	口径：12.0 器高：3.3	平らな底面より直線的に体部に至り、かすかに内湾したのち、小さく外反する。 ○口縁部は比較的丸く取められている。	○底面外面は回転へう削り調整。 ○他は回転ナデ調整であるが、外面底面端から体部の2分の1程度に及び範囲に不定方向のナデが残る。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黒灰色 ロクロ：右方向		

果 實 形 態	果 實 形 態	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
35 杯身 (第4層)	口径：12.9 器高：3.4	○平型な底面からゆるやかに上へ立ち上がり、一度内傾したのち外反する。口縁部は丸く取られている。	○底部外面は不定方向のナゲ調整。 ○底部内面は3分の2下方は不定方向のナゲ調整が施されている。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：生焼 色調：淡茶灰色 ロクロ：右方向
36	口径：13.0 器高：3.7	○中型な底面から丸味をもって腰部に至るもので、一度内傾したのち、口縁部が小さく外反する。内筒する部分で縁を呈する。	○底部外面は垂直な回転ヘラ切りで、一部の底部と腰部の接点部に段を有する。 ○底部内面中央部に一定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良(変形) 色調：黒灰色 ロクロ：右方向
37 (第5層)	口径：11.6 器高：2.9	○平型な底面から丸味をおびながら腰部に至る。腰部より口縁部にかけてやや内傾気味に立ちあがる。口縁部は丸く取まる。	○底部外面は回転ヘラ削り未調整。 ○底部内面から腰部にかけて、部分的にナゲを施している。他は回転ナゲ調整。 ○底部外面にヘラ痕が残る。底部内面中央に一定方向のナゲを施す。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黒灰色 ロクロ：左方向
38	口径：12.0 器高：3.7	○平型な底面からやや丸味をおびながら、なだらかに立ちあがる。腰部上方でやや丸くらみを有する。口縁部は小さく外反し、腰部はやや丸味をおびている。	○底部外面はヘラ削り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲを残す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：黒灰色 ロクロ：左方向
39	口径：12.0 器高：2.9	○わずかに内側に傾いた底面から小さい段をなして腰部に至る。腰部、口縁部は内傾気味である。腰部は丸く取められている。	○底部外面はヘラ削り未調整。 ○底部内面は丁寧なナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：不良 焼成：良好 色調：黒灰色
40	口径：11.4 器高：3.5	○平型な底面から直線的に腰部に至り、口縁部はやや内傾気味に取まる。腰部は丸く取まる。	○底部外面は回転ヘラ削り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲを残す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：黒灰色 ロクロ：右方向
41	口径：12.8 器高：2.3	○全体的にやや内側に傾いた底面から直線的に腰部へと至る。	○底部外面は回転ヘラ削り調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲを残す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：暗黒灰色 ロクロ：右方向

品名	形状	容量 (ml)	形態の特長	特徴	備考	
第 一 床 席	杯舟 (第5層)	42	口径：12.8 器高：3.5	○平らな底部面より直線状部へ至り、やや内傾したのち外上方へのびる。口縁端部は丸く収まる。	○底部外面は回転ヘラ切り未調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黄白白色 ロクロ：右方向
		43	口径：11.8 器高：3.1	○平らな底部面から丸味をもって立ち上がり、一度内湾したのち外反する。口縁端部はやや尖り丸味である。	○底部外面はヘラ切り未調整。 ○底部内面中央部にナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良(歪形) 色調：黒黄灰色 ロクロ：左方向
	44	口径：12.0 器高：3.2	○平らな底部面からならだかに立ち上がり、一度の内湾の後、外反する。二重の内湾の間に鋭い稜をなす。口縁端部は比較的丸く収まる。	○底部外面は回転ヘラ切り未調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：黒黄灰色 ロクロ：左方向	
	45	口径：12.2 器高：3.3	○平らな底部より丸味をおびて体部に至り、ゆるやかに外反する。	○底部外面は回転ナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 ロクロ：左方向	
	46	口径：12.0 器高：3.0	○平らな底部面より丸味をおびて、なだらかに立ち上がり口縁部で外反する。口縁端部は丸く収まる。	○底部外面は回転ヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナデが残るが、他の重は丁寧なナデ仕上げが施されている。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 ロクロ：右方向	
	47	口径：12.2 器高：3.1	○わずかに底部外面が内側へ突出気味ではあるが、丸味をおびてやや剛き気味で体部に至る。口縁部は小さく外反し、端部は尖り気味である。	○底部外面は回転ヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向	
	48	口径：13.0 器高：3.5	○平らな底部面からならだかに立ち上がり、内傾したのち口縁部で外上方へのびる。	○底部外面は回転ヘラ切り未調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：生焼 色調：淡黄白色 ロクロ：右方向	

品名	図号	法量 (cm)	形態の特微	成形の特徴	備考
豆 科 材 身 (第5層)	49	口径：12.0 筒高：4.0	○比較的平らな底部面から小さな段を有して、内湾知味に 体部に至る。口縁部はゆるやかに外反し、端部は丸く収 められている。	○底部外面は回転へら切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲを残す。 ○他はやや鈍い回転ナゲ調整を施す。	胎土：良好 焼成：不良 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
	50	口径：14.0 筒高：3.6	○平坦な底部面からなだらかに立ち上がり、体部で内湾し たのち口縁部で外上方へのびる。口縁端部は丸く収まる。	○底部外面は回転へら切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
第 一 灰 層	51	口径：11.2 筒高：3.2	○ややくぼみ知味ではあるが、全体的に平らな底部から外 上方へゆるやかにのびる体部を有する。口縁端部は丸く 収める。	○底部外面は明確ではないが、回転へら削り調 整。 ○底部内面及び体部内外面共に回転ナゲ調整。 (底部内面の一部でナゲ調整)	胎土：やや不良 焼成：不良(変形) 色調：濃茶灰色 ロクロ：左方向
	52	口径：12.0 筒高：3.0	○ほぼ平らな底部面より段をなし、体部へと立ち上がる。 口縁部はわずかに内湾知味で端部は少し丸味をおびてい る。	○底部外面はへら切り未調整。 ○底部内面中央は一定方向のナゲが見られる。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：暗黄灰色 ロクロ：右方向
第 二 灰 層	53	口径：12.0 筒高：3.7	○平坦な底部面から丸味を有しながら、なだらかに体部に 至る。口縁端部はやや丸く収まる。	○底部外面は回転へら切り未調整。 ○他は回転ナゲ調整であるが、全体的にかなり 丁寧に磨きされている。 ○底部内面中央に一定方向のナゲが残る。	胎土：不良 焼成：不良(変形) 色調：暗黒灰色 ロクロ：左方向
	54	口径：12.2 筒高：3.3	○底部中央が内面に突出しているが、他の底部面は平坦で わずかに丸味をもつて体部に至る。口縁は小さく外反し 端部は丸く収まる。	○底部外面は回転へら削り未調整。 ○底部内面は回転ナゲの後、ナゲ仕上げを行っ ている。	胎土：良好 焼成：不良 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
第 三 灰 層	55	口径：12.6 筒高：3.1	○底部中央がやや内面へ突出知味ではあるが、丸味をおび て体部に至る。体部で一度小さく外上方へのびるが、口 縁部は内湾知味に収まる。口縁端部はやや尖り丸味であ る。	○底部外面は回転へら切り未調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良 色調：濃茶灰色 ロクロ：左方向
	56	口径：12.9 筒高：3.8	○平坦な底部面から直線体部に至り、体部下方向から大きく 外上方へのびる。口縁端部は比較的丸く収まる。	○底部外面は回転へら切り未調整で、粘土目を 明確に残す。 ○底部内面下方は部分的にナゲが施されている。 ○他は回転ナゲ調整である。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃茶灰色 ロクロ：左方向

品名	型番	容量 (cm)	形態の特長	成形の特徴	備考
第 5 類	杯身 (第 5 層)	57	○やや凸凹のある底面から丸味をおびながら、外上方へ大きく開き気味で立ちあがる。口縁部でわずかに外方へのび、端部は丸く取められている。 ○底面と側部の境で部分的に段をなす。	○底面外面はへう切り未調整。 ○底部内面中央部に一定方向のナガが残る。 ○他は回転ナガ調整である。部分の 1 は回転である。	胎土：やや不良 焼成：不良 色調：濃茶灰色 ロクロ：左方向
		58	○平坦な底面より大きく外上方へのび体部に至る。口縁部はやや突り気味に取まる。	○底面外面は回転へう切り未調整。 ○側面内面に部分的にはあるが、不定方向のナガを残す。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
		59	○平坦な底面からやや丸味をおびながら、直線状に立ちあがる。口縁部は少し突り気味に取まる。	○底面外面は回転へう切り未調整。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
		60	○平坦な底面から大きく外上方へ立ち上がり、口縁部はやや内湾気味になる。端部は比較的丸く取まる。	○底面外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面は不定方向のナガが残る。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良 (変形) 色調：暗黄灰色 ロクロ：左方向
		61	○比較的平坦な底面から小さな段を石して、なだらかに立ちあがる。口縁部は少し内湾気味で、端部は丸く取まる。	○底面外面はへう切りで、部分的にナガを残す ○底部内面は不定方向のナガ調整。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：良好 焼成：生焼 色調：濃茶灰色 ロクロ：右方向
		62	○内側にくぼんだ底面から丸味をもって直線状に立ちあがる。口縁部は丸く取まる。	○底面外面は回転へう切りで、部分的にナガを残す。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：良好 焼成：不良 (変形) 色調：黒灰色 ロクロ：右方向
第 6 類	有台杯身 (第 6 層)	63	○平坦な底面から丸味をおびて外上方へ立ちあがる。口縁部はやや突り気味に取まる。高台は直線や内側に貼付され、太短く直立気味だが、端部は内込している。 ○接地面は外端部に接合している。 ○高台接地面に一条の洼線がみられる。	○底面外面は回転へう切り調整。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：良好 焼成：生焼 色調：黄灰色 ロクロ：左方向
		64	○は平坦な底面から直線状に立ちあがり、口縁部でやや外反する。底面やや内側に直立気味な高台が貼付され、接地面は平らである。	○底面外面は回転へう切り調整。 ○底部内面は不定方向のナガが残る。 ○他は回転ナガ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良 (変形) 色調：黄灰色 ロクロ：左方向

製法区	形	図説	法量 (mm)	形態の特徵	特徴	成形の特徴	備考
有付杯分 (第4層)	65	口径: 16.0 高台径: 10.4 器高: 4.0	○平坦な底面から丸味をもって直線体部に至る。口縁部はやややみり気味に取まる。底面はやや内側に高台を附け、縁地面は平らである。	○平坦な底面から丸味をもって直線体部に至る。口縁部は丸く取まる。底面はやや内側に高台を附け、縁地面は平らである。	○底面外周は回転へう削り調整。 ○底面内周はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰灰色 ロクロ: 左方向	
	66	口径: 17.2 高台径: 11.2 器高: 4.3	○平坦な底面から直線体部に至り、口縁部は丸く取まる。底面はやや内側に、八の字形に開く高台を附け、縁地面は平らである。	○平坦な底面から直線体部に至り、口縁部は丸く取まる。底面はやや内側に、八の字形に開く高台を附け、縁地面は平らである。	○底面外周は回転へう削り調整。 ○底面内周3分の2は不定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 黒灰灰色 ロクロ: 右方向	
	67	口径: 17.3 高台径: 11.2 器高: 4.9	○平坦な底面より丸味をもって立ち上がり、口縁部はやや外反気味である。底面はやや内側に八の字形に開く高台が附けられ内地面で接合する。	○平坦な底面より丸味をもって立ち上がり、口縁部はやや外反気味である。底面はやや内側に八の字形に開く高台が附けられ内地面で接合する。	○底面外周は回転へう削り未調整。 ○底面内周中央には一定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 濃灰灰色 ロクロ: 右方向	
	68	口径: 18.0 高台径: 11.9 器高: 3.9	○平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、一差内傾したの外上方へのびる。端部は丸く取まる。底面はやや内側にやややみの字形に開く高台を附け、内地面で接合する。	○平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、一差内傾したの外上方へのびる。端部は丸く取まる。底面はやや内側にやややみの字形に開く高台を附け、内地面で接合する。	○底面外周は回転へう削り調整。 ○底面内周中央部に不定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 濃灰灰色 ロクロ: 右方向	
	69	口径: 15.0 高台径: 10.5 器高: 3.9	○平坦な底面から直線体部に至り、口縁部は比較的丸く取まる。底面端にやややみの字形に開く高台を附け、内地面で接合する。	○平坦な底面から直線体部に至り、口縁部は比較的丸く取まる。底面端にやややみの字形に開く高台を附け、内地面で接合する。	○底面外周はへう削り未調整。 ○底面内周の大半は一定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 色調: 濃灰灰色 ロクロ: 左方向	
	70	口径: 16.0 高台径: 10.0 器高: 3.4	○平坦な底面から大きく外上方へ立ち上がり、口縁部はやや内傾する。端部はやややみり気味に取まる。底面端に大きく八の字形に開く短い高台が附けられ、内地面で接合する。	○平坦な底面から大きく外上方へ立ち上がり、口縁部はやや内傾する。端部はやややみり気味に取まる。底面端に大きく八の字形に開く短い高台が附けられ、内地面で接合する。	○底面外周はへう削り調整。 ○底面内周は不定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 濃灰灰色 ロクロ: 左方向	
	71	口径: 16.8 高台径: 11.6 器高: 4.5	○平坦な底面からやや丸味をおびて、直線体部へ至る。口縁部はやややみり気味に取まる。高台は底面端に附けられ、短く、端部は外反する。縁地面は平らである。	○平坦な底面からやや丸味をおびて、直線体部へ至る。口縁部はやややみり気味に取まる。高台は底面端に附けられ、短く、端部は外反する。縁地面は平らである。	○底面外周は回転へう削り調整。 ○底面内周は一定方向のナゲ調整。 ○高台外周は回転ナゲ調整によって補足されている。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 生焼 色調: 灰褐色 ロクロ: 右方向	
	72	口径: 18.4 高台径: 13.7 器高: 3.9	○平坦な底面から直線体部に至る。体部で一差内傾するが、口縁部では小さく外反する。端部は丸く取まる。底面端に八の字形気味の高台が附けられ、内地面で接合する。	○平坦な底面から直線体部に至る。体部で一差内傾するが、口縁部では小さく外反する。端部は丸く取まる。底面端に八の字形気味の高台が附けられ、内地面で接合する。	○底面外周は回転へう削り調整。 ○底面内周はのみが調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: 良好 (生焼) 色調: 濃灰灰色 ロクロ: 右方向	

器名	器形	図形番号	法量 (cm)	形態の特徵	成型の特徴	備考
有台仔身 (第5期)	73	口径: 10.8 高台径: 6.9 器高: 3.7	○平出な底面から直線体部に至る。口縁部はわずかに外反し、肩部はやや尖り気味に取まる。底部はやや内側に直立気味の小さい高台が貼付され、挿地面は平らである。 ○底部外面以外に、かまりのくぼみがある。(外面全体に二次焼成の跡があり、裏台の可能性大)	○底部外面は回転へう削り調整。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 浅黄色 色調: 淡青色 ロクロ: 右方向	
	74	口径: 13.5 高台径: 9.3 器高: 4.3	○ほぼ平らな底部から丸味をおびて立ち上がり、腰部・口縁部は内湾気味である。口縁部には丸く取まる。高台はや内側に八の字形の突起が貼付され、内端で接合する。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲが残る。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 外、黒灰色 内、淡灰黄色 ロクロ: 左方向	
箸	75	口径: 14.3 高台径: 8.2 器高: 4.1	○平坦な底面からなだらかに腰部に至る。口縁部はやや尖り気味に取まる。底部はやや内側に八の字形の高台を貼付し、どちらかといえば外端で接合する。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面中央に一定方向のナゲが残る。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 (黒影) 色調: 黒灰色 ロクロ: 右方向	
一	76	口径: 14.3 高台径: 8.7 器高: 4.5	○下方へややおちこみ気味の底面から丸味をおびて腰部へ立ち上がる。口縁部は小さく外上方へのび、肩部は比較的丸く取まる。底部端はやや内側に八の字形の高台を貼付し、挿地面はほぼ平らである。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面はナゲ調整。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 淡灰色 ロクロ: 右方向	
灰	77	口径: 14.8 高台径: 9.6 器高: 4.3	○平坦な底面から直線体部に至るもので、口縁部は尖り気味に取まる。底部はやや内側に直立気味の高台を貼付し、外端で接合する。高台部分はやや凹状を成している。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面3分の2はナゲ調整。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 淡灰色 ロクロ: 右方向	
原	78	口径: 15.0 高台径: 10.0 器高: 4.4	○平坦な底面からなだらかに立ち上がり、腰部で一底内湾する。口縁部はわずかに内湾気味で肩部はわずかに尖り気味に取まる。底部はやや内側に直立気味の高台を貼付し、挿地面は平らである。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面3分の2はナゲ調整。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 淡灰色 ロクロ: 右方向	
	79	口径: 16.1 高台径: 11.0 器高: 4.2	○平らな底面からなだらかに直線体部に至る。口縁部はやや尖り気味に取まる。底部はやや内側に直立気味の高台を貼付し、内端で接合する。	○底部外面は回転へう削り調整。 ○底部内面はナゲ調整。 ○後は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 黒灰色 ロクロ: 右方向	

図説	図形	四角 量材	法量 (cm)	形態の特徵	成形の特徵	備考
80	右台秤身 (第5層)	80	口径: 17.0 高台径: 11.3 器高: 4.8	○平皿を底部面から直線部に至り、一重かすかに内傾気味となる。口縁部は比較的内外気味で、端部は丸味をおびて収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面は三分の二は丁寧なナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 外、黒灰色 内、淡黄灰色 口クロ: 右方向
81		81	口径: 17.0 高台径: 11.7 器高: 4.7	○平皿を底部面から直線部に至り、口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 淡黒灰色 口クロ: 右方向
82		82	口径: 17.0 高台径: 12.3 器高: 4.4	○は平皿を底部面から直線部に至り、口縁部は丸味をおびて、直線部に至る。口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 淡黒灰色 口クロ: 右方向
83		83	口径: 17.4 高台径: 11.4 器高: 4.5	○中央がややおろこむ底部面から直線部に至り、口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面中央部に一定方向のナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 黒灰色 口クロ: 右方向
84		84	口径: 15.0 高台径: 10.1 器高: 4.5	○平皿を底部面から直線部に至る。口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面は三分の二はナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 (変形) 色調: 淡黒灰色 口クロ: 右方向
85		85	口径: 15.0 高台径: 10.7 器高: 4.5	○ほぼ平皿を底部面から直線部に至り、口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面は丁寧な回転ナゲ調整。 ○高台外面の体部への焼成は傾いた回転ナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 (変形) 色調: 黒灰色 口クロ: 右方向
86		86	口径: 15.8 高台径: 10.0 器高: 4.0	○平皿を底部面から丸味をおびて体部に至る。口縁部は丸味に収まる。底部中央の内側に八の字形に開く蓋台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転へラ削り調整。 ○底部内面はナゲを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 黒灰色 口クロ: 右方向

製 形	四角 番号	法 量 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
製 形 区 (第5層)	87	口 径：16.0 高台径：10.0 器 高：4.2	○平坦な底面から直線体部へ至り、口縁部でわずかに外反する。口縁部はやや凸り気味に収まる。底面端にわずかに八の字形の高台が貼付され、内側面に接地する。	○底面外周は回転ヘラ削り調整。 ○底面内周はヘラ削りを施す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向
	88	口 径：16.6 高台径：10.4 器 高：3.7	○平らな底面から体部へ直線より、口縁部で小さく外上方へのびる。胴部は丸く収められている。底面端に直立気味の高台を貼付し、内側面で接地する。	○底面外周は回転ヘラ削り調整。 ○底面内周の一部にナゲを残す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：不良(変形) 色調：黒灰色 ロクロ：左方向
	89	口 径：17.0 高台径：12.8 器 高：4.4	○平らな底面からややふくらみを有して直線体部に至り口縁部は丸く収まる。底面端に八の字形に開く高台を貼付し、内側面で接地する。	○底面外周は回転ヘラ削り調整。 ○底面内周中央に一定方向のナゲが残る。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：不良 焼成：良好(変形) 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向
	90	高台径：9.3	○ほぼ平らな底面から直線体部に至る。口縁部は収容してあらず、不齊。底面端に八の字形に開く高台を貼付し、高台底面は凹状を成す。外側面で接地する。	○底面外周は回転ヘラ削り調整。 ○底面内周はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整であるが、高台外側の補足の回転ナゲは調整である。	胎土：良好 焼成：良好 色調：暗黒灰色 ロクロ：左方向
	91	高台径：11.9	○平坦な底面からなだらかに立ち上がる。体部及び口縁部は埋存しておらず不齊。底面端に直立気味の高台を貼付し、接地面は平らである。	○底面外周は回転ヘラ削り調整。 ○底面内周3分の2はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：乾燥 色調：黒灰色 ロクロ：左方向
製 形 区 (第4層)	92	口径：36.8	○口縁部が外上方へ直線的にのびる。胴部はなだらかに下がる。	○胴部・体部外周は平行印まきの後、スリケン調整。	胎土：不良 焼成：良好 色調：淡黒灰色
	93	口径：30.3	○口縁部は短く外上方へのびる。胴部・体部はなだらかに下がる。	○胴部及び体部外周は平行印まきをカキ目により調整。 ○体部内周は同心円状が残る。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：淡黒灰色
	94	口径：35.0	○口縁部は短く外上方へのび、口縁部で小さく凹曲さまで記号にする。胴部はなだらかに下がり、体部に至る。	○不詳	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：黒灰色
	95	口径：27.7	○口縁部は短く外上方へのび、口縁部はわずかに外反気味。胴部・体部はなだらかに下がる。	○体部外周は平行印まきの後、スリケン調整。 ○体部内周は同心円状の後、半スリケン調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：黒灰色

品名	形状	測定方法 (cm)	形状の特徴	成形の特徴	備考
第4種	96	口径: 23.5 体部最大径: 34.0	○口頸部はやや長く外上方にのび、口縁部で小さく外反する。胴部から下の方に下がって体部に至り、やや長い球体をなす。	○胴部外側は平行印きで、半スリケン調整。 ○胴部内側は同心円文脈の線、半スリケン調整。 ○不詳	胎土: 良好 焼成: 不良 (変形) 色調: 外、灰褐色 内、黒灰色
	97	口径: 26.2	○口頸部は直立斜味にのび、口縁部で小さく外上方へ伸びる。		胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色
第5種	98	口径: 23.8	○口頸部はやや長く外上方にのび、口縁部で小さく外反する。胴部はなだらかに下がる。	○胴部外側は平行印きで半スリケン調整。 ○胴部内側は凹弧門文脈を成す。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 濃黒灰色
	99	口径: 26.2	○口頸部はやや長く外上方にのび、口縁部で小さく外反する。胴部はなだらかに下がる。	○胴部外側は平行印きでスリケン調整。 ○胴部内側は凹弧線を成す。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 濃黒灰色
第1種	100	口径: 22.0	○口頸部は上方へ立ち上がったのち、屈曲して外上方へ伸びる。相違する点で疑をなす。口縁部はわずかに外反する。胴部はなだらかに下がり体部に至る。	○体部外側は平行印き球を成す。 ○体部内側は同心円文脈を成す。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色
	101	口径: 26.0	○口頸部は比較的長く、外上方にのびる。胴部から体部にかけてはゆるやかに下がる。	○体部外側は平行印き球を成す。 ○体部内側は同心円文脈を成す。	胎土: やや不良 焼成: 良好 色調: 外、茶灰色 内、灰色
第2種	102	口径: 23.0 体部最大径: 32.0	○口頸部は比較的短く外上方にのび、口縁部で小さく外反する。胴部はなだらかに下方にのび体部に至り、球体をなす。	○体部外側は平行印きで上方で半スリケン調整 ○体部内側は凹弧印きを成す。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒灰色
	103	口径: 46.0	○口頸部は比較的短く外上方へ伸びる。胴部はなだらかに下がり、体部に至る。	○胴部外側は平行印きで半スリケン調整。 ○胴部内側は同心円文脈を成す。	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 暗黄灰色
第3種	104	口径: 41.0 体部最大径: 22.4 残存高: (28.0)	○口頸部は短く外上方にのびる。やや胴部が張っているが、球形に近く、丸底と見られる。片方は残存しているが、体部に把手を付している。	○体部外側は平行印きで、半スリケン調整。 ○体部内側は同心円文脈を成す。	胎土: 良好 焼成: やや不良 色調: 外、濃黒灰色 内、茶灰色

調査区	器形	調査番号	法量 (cm)	形態	特徴	成形の特徴	備考
第一原	長頸瓮 (第5層)	105	口径: 11.0 基部径: 6.0 体部最大径: 16.5 高台径: 10.2 器高: 22.9	○八の字形に近く貼付高台を有した平坦な底部から外上方へ直線的にのびて体部を形成する。肩部はやや張り気味で下方に一条の沈線を描す。口頸部は細く、外反する口縁部を有する。喉部口縁が胴部径より大きくなる。胴部中央やや下方に2条の沈線を描す。口頸部後面の刺線が凸している。高台は内面側で接合する。	○体部下3分の2は回転へのり調整。 ○口頸部-高台は回転ナデ調整。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 淡黒灰色	
		106	口径: 9.5 基部径: 6.2 体部最大径: 17.1 高台径: 10.0 器高: 22.5	○内面側で接合する八の字形の貼付高台をもち、底部から外上方に直線的にのびて体部を形成する。体部と肩部の屈折は丸みを帯びている。肩部はやや張り気味である。口頸部は内湾気味にのびる。喉部口縁が胴部径より大きくなる。口頸部中央と下方に一条ずつの沈線を描す。	○体部外面、底部外面に回転へのり調整。 ○口頸部外面は回転ナデ調整であるが、中央沈線上方は粗い。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 (歪形) 色調: 淡黒灰色	
第一原	短頸丸胴壺 (第4層)	107	口径: 7.9 体部最大径: 11.2	○底部及び体部下方は現存していないので、不詳であるが、なだらかに立ち上る体部からゆるやかに内傾して肩部に至る。口頸部は短く細くわずかに外上方へのびる。肩部は尖り気味に収まる。 ○全体的に自然釉が残る。	○回転ナデ調整。	胎土: 良好 焼成: 不良 色調: 外、黒灰色 内、淡黒灰色	
		108	口径: 13.7 体部最大径: 20.0	○底部は現存していないので不詳であるが、基部からなだらかに外上方へのびて体部を形成する。肩部はやや張り気味で、体部との屈折は丸みを帯びている。口頸部は短く外上方へのび、肩部は丸く収まる。 ○体部内面に薄層文を施す。	○回転ナデ調整。 (口頸部部に回転ナデを施す際にへのり附りを寓している。)	胎土: 良好 焼成: 良好 色調: 黒黒色	
第一原	壺 (高台) (第5層)	109	高台径: 12.0 高台高: 2.0	○高台のみ現存しており、後は不明。この高台は体部に傾けられており、体部から大きく外下方へのびた後、強く屈折して内傾する。その下方に八の字に開く短く細い台を有する。	○内外面ともに回転ナデを施す。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 暗黒灰色	
		110	高台径: 10.4 高台高: 1.3	○109に近類似しており、高台内面に2条(一部3条)の尖層文がある。	○内外面ともに回転ナデを施す。	胎土: やや不良 焼成: やや不良 色調: 暗黒灰色	
第一原		111	高台径: 10.1 高台高: 2.1	○109, 110 に類似しているが、台の最下方がやや内傾している。 ○体部内底部に粘土層が残る。	○高台内面2分の1に一定方向のナデが残る。 ○他に回転ナデ調整。	胎土: やや不良 焼成: 不良 色調: 淡黒灰色	

器形	器形	法 量 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
112	112	高台径：15.4 高台高：3.0	○高台は腰部に貼付されており、腰部から外反臭味に上下方へのびた後、強く屈折して内傾する。	○内面2分の1は不定方向のナデを撫す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良 色調：淡黒灰色
鉢 (第4層)	113	口径：29.4 体部最大径：27.8	○胴部はなだらかに立ち上がり、内湾臭味に胴部に至る。 ○底部はゆるやかに外上方へのび、口縁端部はほぼ平らに収まる。	○内外面ともに回転ナデ調整を基調としているが、胴部内面に部分的にナデを撫す。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：明灰褐色
鉢鉢 (第5層)	114	口径：29.5 残存高：(20.1)	○胴部及び口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁端部は丸味をおびて収まる。	○内面下方2分の1は回転ナデ調整。 ○外面下方分の1は平打叩きの後、スリケンを撫す。 ○内面下方分の1は粗漉なナデを撫す。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：淡黒灰色
台付皿 (第5層)	115	口径：19.0 胴部径：9.7 胴部高：2.1 器高：4.9	○杯縁は平坦な底部面からなだらかに立ち上がり、短い口縁部を有する。端部は短く収まる。 ○胴部は下方で輪状帯を有し、その中央部はつまみ出した樽に凸状を呈している。そしてこの輪状帯からなだらかに立ち上がり杯縁に至る。	○杯縁部外面2分の1は回転ヘラ削り調整。 ○杯縁内面3分の2は丁寧なナデを撫す。 ○脚底部外面の一部分でヘラ切り筋をほめる。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：淡黒灰色
皿 (第5層)	116	口径：18.0 器高：5.1	○ほぼ平坦な底部面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部は内湾臭味である。端部は比較的丸く収まる。 ○底部外面に凹状のヘラ起りが残る。	○底部外面はヘラ切り未調整。(部分的にナデを撫す) ○底部内面はナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：淡灰褐色
平飯 (第4層)	117	口径：31.7 胴部高：6.8 体部最大径：19.1 器高：13.9	○中心から偏した口断面は基部からやや内湾臭味にのび、大きくラック状に開く。口断面中央上方に一条の沈澱を撫す。口縁端部は平らに収まる。胴部はやや漲っている。底部は平坦である。	○底部及び体部下方2分の1・外面は回転ヘラ削り調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黒灰色
碗状飯碗 (第4層)	118	体部最大径：16.0 体部最大幅：4.0 残存高：(14.0)	○底部にわたる部分は平坦全面をなし、環状をなして口縁部に至る。各々の面は平らで、ほとんどもとくのみを呈しない。4枚の板状の粘土を接合してはならないかとと思われる。	○内面縁角部はカキ目調整。 ○外面は回転ヘラ削り調整。(部分的にハケ目ナデを撫す)	胎土：良好 焼成：良好 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
鉢 (第5層)	119	口径：19.7 器高：18.5 器径：12.0	○器縁に小安定な台状のものを伴い、器高は比較的高く、口縁部でラック状に開く。端部はやや尖り臭味に収まる。体部後より口径の方がはるかに大きくなる。底部に何か刺突したような、小孔が多数みられる。(3cm四方に14個)	○内外面ともに回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：暗灰褐色

産区	産形	原産番号	法 量 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
第 一 区		120	底 径：11.3 残存高：(15.0)	○上記119に類似しているが、底部は平坦で安定している。 ○底部に小孔が多数みられる。(3cm四方に11個)	○内外面ともに回転ナデ調整。 ○底部外面の一部にナデとヘラ削り痕が残る。	胎土：良好 焼成：良好 色調：流石灰色
		121	口径：25.3	○底部はなだらかに外上方へのび、中央部で絞をなして後を有する。 ○口縁部は内方へ折曲する。	○回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：外、黒灰色 内、流石灰色
		122	口径：12.2①② ③下位	○杯身の陪葬品で6個体のつらぎ重ねである。	○最上位①の底部外面は回転ヘラ削り未調整。 ○最上位②の底部内面中央部にナデを施す。	胎土：不良 焼成：やや不良 色調：流石灰色
第 一 区	高 蓋	123	口径：11.2③ ④最下位	○杯身の陪葬品で3個体のつらぎ重ねである。	○最下位③の底部外面はヘラ削り未調整。 ○最上位④の底部内面2分の1は一定方向のナデを施す。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：流石灰色
		124	口径：11.4 蓋高：4.3	○やや扁平な蓋玉縁つまみを有し、ほぼ平坦な天井部から垂直な口縁におおらる。口縁部はわずかに丸味をおびて収まる。天井部境に収まらぬ。	○天井部外面は回転ヘラ削り調整。 ○天井部内面は丁寧なナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良(変形) 色調：流石灰色 口縁：右方向
		125	口径：9.8 残存高：(3.2)	○ほぼ平坦な天井部より丸味をおびて体部に至り、腔内凹したのち小さく外反する。内周面で接着する。外面に口縁輪が残る。	○天井部外面は回転ヘラ削り調整。 ○天井部内面はナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：流石灰色 口縁：右方向
第 一 区	杯 碗	126	口径：14.0 残存高：(3.7)	○天井部は丸味を有し、なだらかに外下方へのびる。口縁部はやや尖り丸味に収まる。	○天井部外周2分の1は回転ヘラ削り調整。 ○天井部内面はナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：流石灰色 口縁：右方向
		127	口径：16.0 残存高：(3.1)	○なだらかに下る天井部から小さな絞をなし、口縁部で内傾する。底部は尖って収まる。	○天井部外周2分の1は回転ヘラ削り調整。 ○天井部内面3分の2はナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：流石灰色 口縁：右方向

種別	品名	原産番号	法量 (cm)	形態の特長	成形の特長	備考		
林産	杉	128	口径：16.2 器高：3.2	○ 平中中央に偏平で比較的太型の蘆室環溝つまみを貼付、中央部からゆるやかに外下方へのびる。天井部端で縁をなし、口縁部はわずかに凹状をなして内傾する。	○ 天井部外面3分の1は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面3分の1はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：濃黒灰色 ロクロ：右方向		
		129	口径：16.4 器高：4.0	○ 天井部中央にわずかに中央部が突出した蘆室環溝つまみを貼付、平坦面からなだらかに外下方へのびる。口縁部は凹状をなして内傾する。	○ 天井部外面3分の2は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面中央部に一定方向のナゲを残す。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：不良(夏柿) 色調：濃黒灰色 ロクロ：右方向		
		130	口径：16.6 器高：4.4	○ 天井部中央に蘆室環溝つまみを貼付、天井部平坦面からなだらかに外下方へのびる。口縁部はわずかに凹状をなし、内傾する。	○ 天井部外面3分の1は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面3分の2はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃黒灰色 ロクロ：右方向		
		131	口径：16.6 器高：4.3	○ 130に類似、口縁部の凹状部分で縁をなす。	○ 天井部外面3分の2は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面3分の1はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：良好 色調：濃黒灰色 ロクロ：左方向		
		132	口径：16.2 器高：3.3	○ 偏平な蘆室環溝つまみを貼付し、天井部平坦面からゆるやかに外下方へのびる。口縁部は内傾する。	○ 天井部外面3分の2は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面2分の1は丁寧なナゲを残す。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：生焼 色調：濃茶白色 ロクロ：左方向		
新	一	灰	原	133	口径：16.0 器高：2.6	○ 天井部中央に偏平な蘆室環溝つまみを貼付、天井部平坦面からなだらかに外下方へのびる。口縁部は凹状をなし内傾する。	○ 天井部外面3分の2は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面2分の1はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良 色調：濃黒灰色 ロクロ：右方向
				134	口径：16.0 器高：2.8	○ 偏平な蘆室環溝つまみを貼付、天井部平坦面からなだらかに外下方へのびる。口縁部は内傾気味。	○ 天井部外面3分の2は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面3分の2はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃黒灰色 ロクロ：右方向
				135	口径：16.0 器高：2.7	○ 偏平な蘆室環溝つまみを貼付、天井部平坦面からゆるやかに外下方へのびる。天井部端で縁をなし、口縁部は凹状をなし、内傾気味。	○ 天井部外面2分の1は回転ヘラ削り調整。 ○ 天井部内面3分の2はナデ調整。 ○ 他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃黒灰色 ロクロ：左方向

器 形	器 形 番 号	法 量 (cm)	形 題 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考												
樽 形	136	口径：16.0 器高：3.2	○扁平な蓋空珠椀つまみを貼付、天井部平坦面からなごらからに外下方へのびる。この窪み強い様をなす。口縁部はほぼ直感におちる。	○天井部外面2分の1は回転へく削り調整。 ○天井部内面3分の1はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黒灰色 ロクロ：左方向												
						口径：16.4 器高：3.5	○天井部中央にやや扁平な蓋空珠椀つまみを貼付、天井部平坦面からなごらからに外下方へのびる。口縁部はわずかに凹状をなし、垂直におちる。	○天井部外面3分の2は回転へく削り調整。 ○天井部内面中央部に一定方向のナゲを貼す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：不良(変形) 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向								
										口径：16.4 器高：3.5	○天井部中央にやや扁平な蓋空珠椀つまみを貼付、天井部平坦面からなごらからに外下方へのびる。口縁部は凹状を成し内傾する。	○天井部外面3分の2は回転へく削り調整。 ○天井部内面3分の2はナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：至感 色調：淡黒灰色 ロクロ：左方向				
														口径：18.0 器高：3.5	○扁平な蓋空珠椀つまみを貼付、天井部平坦面からなごらからに外下方へのびる。口縁部は内傾する。	○天井部外面3分の1は回転ナゲ調整。 ○天井部内面2分の1は丁暮なみごきを貼す。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向
口径：18.2 器高：3.3	○天井部中央に扁平な蓋空珠椀つまみを貼付し、平坦面からなごらからに下がる。口縁部は内傾する。 ○天井部外面に重ねねき痕があり、その部分以外で自然釉が残る。	○天井部外面2分の1は回転へく削り調整。 ○天井部内面3分の2は丁暮なナゲが磨きされて いる。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：生感 色調：淡黒白色 ロクロ：左方向														
				口径：17.0 器高：2.4	○天井部中央に不整形なつまみを貼付、天井部平坦面から段をなして、口縁部に至る。口縁部はやや内傾する。	○天井部外面3分の2は回転へく削り調整。 ○天井部内面3分の2は丁暮なナゲ調整。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向										
								口径：16.2 器高：2.8	○扁平な蓋空珠椀つまみを貼付、天井部平坦面からなごらからに外下方へのびる。口縁部はやや丸味をおびるが直感におちる。	○天井部外面2分の1は回転へく削り調整。 ○天井部内面中央部に一定方向のナゲが残る。 ○他は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向						

器名	容量	法量 (cm)	形態	題の特徵	成形の特徴	備考
杯盤	144	口径：17.0 器高：4.0	○大径部中央に扁平なつまみを取付。天井部は全体約丸味をもち、口縁部はやや内湾気味におちる。	○天井部外面は3分の2は凹縁へラ削り調整。 ○天井部内面2分の1はナデ調整。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：真好 色調：濃黒灰色 ロクロ：左方向	
杯身	145	口径：10.6 器高：3.3	○やや内面に入りこんだ形の底部面から立ち上がり、体部から口縁部にかけて内湾する。口縁端部は比較的内向きである。	○底部外面は凹縁へラ削り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナデが施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：真好 色調：外、黒灰色 内、淡黄灰色 ロクロ：左方向	
	146	口径：10.8 器高：3.4	○平坦な底部面から立ち上がり、体部・口縁部は内湾気味になる。口縁部は尖り気味に取まる。	○底部外面は凹縁へラ削り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナデを施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：真好 色調：淡黒灰色 ロクロ：左方向	
	147	口径：11.0 器高：4.2	○平坦な底部面から其味をおびて立ち上がり、口縁部はわずかに内湾気味となる。体部中央に帯状文を認める。口縁端部は尖り気味に取まる。 ○底部外面にモのヘア記号の線をもを認める。	○底部外面は凹縁へラ削り未調整。 ○底部内面は丁寧なみがきを施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：やや不良 色調：淡黄灰色 ロクロ：右方向	
	148	口径：12.6 器高：3.7	○やや不安定な底部面から、おずかに其味をおびて立ち上がる。口縁部は内湾気味で、端部は比較的尖り気味に取まる。	○底部外面はへラ削り未調整。 ○底部内面中央部に一定方向のナデを施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：真好 色調：淡黄灰色 ロクロ：左方向	
	149	口径：10.6 器高：3.2	○平坦な底部面から直線体部へ立ち上がる。体部中央で小さく凹縁し口縁部に至る。口縁端部はやや尖り気味に取まる。	○底部外面は凹縁へラ削り未調整で、粘土細線を残す。 ○底部内面中央部にナデを施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：やや不良 色調：淡黒灰色 ロクロ：右方向	
	150	口径：11.4 器高：3.6	○ほぼ平坦な底部面から直線体部へ至る。口縁部はやや尖り気味に取まる。	○底部外面は凹縁へラ削り未調整。 ○底部内面中央部に一定方向のナデを施す。 ○他は凹縁ナデ調整。	胎土：真好 焼成：やや不良 色調：淡黄灰色 ロクロ：左方向	

器形	図説番号	法量 (cm)	形態の特徴	成形の特徴	備考
器形	杯身	151	口径：12.0 器高：3.5	○平らな底部面から直線部へ至る。口縁部はやや内湾気味で磨削は比較的丸く収まる。 ○平らな底部面から直線部へ至る。口縁部は尖って収まる。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナアを指す。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：やや不良 色調：液状灰色 ワクロ：左方向
		152	口径：12.0 器高：3.3	○平らな底部面から直線部へ至る。口縁部は尖って収まる。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：良好 色調：黄灰色 ワクロ：左方向
		153	口径：10.4 器高：3.0	○平坦な底部面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部は比較的丸く収められている。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○底部内面は一定方向のナア調整。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：良好 色調：液状灰色 ワクロ：右方向
		154	口径：11.0 器高：3.4	○平坦な底部面より丸味をおびて立ち上がる。口縁部はわずかに内湾気味で、瘤部はやや尖り気味に収まる。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナアを指す。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：やや不良 色調：液状灰色 ワクロ：右方向
		155	口径：11.2 器高：3.5	○やや不安定な底部面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部は尖り気味に収まる。	○底部外面はヘラ切り未調整で、粘上層面を指す。 ○底部内面は一定方向のナア調整。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：やや不良 色調：液状灰色 ワクロ：左方向
		156	口径：12.0 器高：3.2	○平坦な底部面から丸味をおびて外上方へ立ちあがる。口縁部は比較的丸く収まる。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○底部内面はみみがきが残されている。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：やや不良 焼成：良好 色調：液状灰色 ワクロ：右方向
		157	口径：12.2 器高：3.1	○平らな底部面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部で小さく外反する。口縁部は丸く収まる。	○底部外面はヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナアが指す。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：やや不良 色調：液状灰色 ワクロ：左方向
		158	口径：12.4 器高：3.4	○ほぼ平坦な底部面から、やや斜曲して外上方へ立ちあがる。口縁部はやや尖り気味に収まる。	○底部外面は凹縁ヘラ切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナアが指す。 ○他は凹縁ナア調整。 胎土：良好 焼成：やや不良 色調：液状灰色 ワクロ：右方向

製薬区	剤形	型番	分量	法量 (cm)	形態	特徴	形状	特徴	備考
新 一 灰 版	錠 片	159	159	口径：11.2 器高：3.5	○全体的に丸味をおびており、平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、縁部はやや内湾気味で、口縁部は小さく外反する。口縁部は尖り気味に収まる。	○底面外面は回転へラ切りで、中央部以外は丁寧にかがかかっている。 ○底面内面中央はへラ面調整で、その外面にカキ目を施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：濃灰色 ロクロ：左方向		
					○平坦な底面から外上方やや内湾気味に立ち上がり、口縁部で小さく外反する。口縁部ははやや尖り気味に収まる。	○底面外面はへラ切り未調整。 ○底面内面中央に一定方向のナデが残る。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 (変形) 色調：濃灰色 ロクロ：左方向		
					○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口縁部は比較的小く収まる。	○底面外面は回転へラ切り未調整。 ○底面内面中央に一定方向のナデが残る。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃灰色 ロクロ：右方向		
					○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。口縁部は丸く収まる。	○底面外面は回転へラ切り未調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良 (変形) 色調：濃灰色 ロクロ：右方向		
					○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	○底面外面は回転へラ切り未調整で、粘土板の縁部を部分的に残す。 ○底面内面中央に一定方向のナデを残す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：濃灰色 ロクロ：右方向		
					○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	○底面外面は回転へラ切り未調整で、粘土板を残す。 ○底面内面中央に一定方向のナデを残す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃灰色 ロクロ：左方向		
					○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて外上方へのびる。口縁部は比較的小く収まる。 ○内底部でややおちこみ、溝状を呈して立ち上がる。 ○粘土板面を明確に残す。	○底面外面は回転へラ切り未調整。 ○底面内面中央部に一定方向のナデを残す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良 (変形) 色調：濃灰色 ロクロ：左方向		

器形	器形	器形	形態の特徵	成形の特徵	成形の特徵	備考
166	杯身	166	口径：11.0 器高：4.0	○平坦な底部面から、わずかに段をなして、外上方へのびる。口縁部はやや尖り気味に取まる。	○底部外面は回転へう切り未調整で、粘土板痕を残す。 ○底部内面中央に一定方向のナアを施す。 ○他は回転ナア調整。	胎土：良好 焼成：不貞(変形) 色調：濃黄灰色 ロクロ：左方向
167		167	口径：12.0 器高：4.3	○ほぼ平坦な底部面から気味をおびて、外上方へのびる。 口縁部はやや尖り気味に取まる。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面中央部に一定方向のナアを施す。 ○他は回転ナア調整。	胎土：良好 焼成：不貞(変形) 色調：黄灰色 ロクロ：右方向
168		168	口径：13.0 器高：3.8	○ほぼ平坦な底部面から気味をおびて、外上方へのびる。 口縁部はやや尖り気味に取まる。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面中央に一定方向のナアを施す。 ○他は回転ナア調整。	胎土：やや不貞 焼成：不貞(変形) 色調：濃黄灰色 ロクロ：右方向
169	右六分	169	口径：15.0 高内径：10.3 器高：4.5	○ほぼ平坦な底部面から気味をおびて立ち上がる。口縁部は尖り気味に取まる。底部やや内側にハの字形に開く高台を附け、内側面で接地する。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面はナアを施す。 ○他は回転ナア調整。	胎土：やや不貞 焼成：やや不貞 色調：濃黄灰色 ロクロ：左方向
170		170	口径：15.0 高内径：11.0 器高：4.4	○中央部がわずこむ底部面から立ち上がり、口縁部はやや内湾気味。口縁部はやや尖り気味に取まる。底部やや内側に内湾気味の高低を成し、内湾部は平らである。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○他は回転ナア調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃黄灰色 ロクロ：左方向
171		171	口径：16.0 高内径：12.5 器高：3.8	○ほぼ平坦な底部面から気味をおびて立ち上がり、口縁部は尖り気味に取まる。底部やや内側にややハの字形に開く高台を附け、外側面で接地する。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面はナアを施す。 ○他は回転ナア調整。	胎土：良好 焼成：不貞 色調：濃黄灰色 ロクロ：左方向
172		172	口径：16.5 高内径：11.5 器高：3.5	○平らな底部面から小さな段を有しながら立ち上がり、口縁部は小さく外反する。口縁部はやや尖り気味に取まる。底部やや内側に凹気味を成したハの字形の高台を附け、内側面で接地する。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○底部内面はナア調整。 ○他は回転ナア調整。	胎土：やや不貞 焼成：やや不貞(変形) 色調：濃黄灰色 ロクロ：左方向
173		173	口径：14.0 高内径：11.2 器高：4.4	○平坦な底部面から気味をおびて立ち上がり、口縁部はやや内湾気味。口縁部はやや尖り気味に取まる。高台は底部面に附けられ、ハの字形に開く。接地面は平らである。	○底部外面は回転へう切り未調整。 ○他は回転ナア調整。	胎土：良好 焼成：佳善 色調：濃黄灰色 ロクロ：右方向

通称	器形	器番号	法 尺 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
第 一 区	有台杯分	174	口 径：14.5 高台径：10.8 器 高： 3.8	○平坦な底面から丸味をもって立ち上がる。口縁部はやや尖り丸味に収まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、内面端で接合する。	○底部外面は回転ヘラ削り調整。 ○底部内面はナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		175	口 径：15.4 高台径：11.0 器 高： 4.5	○平坦な底面から外上方へのびる。口縁部は尖って取まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、内面端で接合する。	○底部外面はヘラ切り未調整。 ○他は回転ナデを施す。	胎土：良好 焼成：不良 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		176	口 径：15.5 高台径：11.2 器 高： 4.0	○平坦な底面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部はやや尖り丸味に収まる。底面端にややハの字形に開く高台を貼付し、内面端で接合する。	○底部外面は回転ヘラ削り調整。 ○底部内面はナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		177	口 径：15.8 高台径：11.1 器 高： 4.5	○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部は尖って取まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、高台底面は凹状を成す。内面端で接合する。	○底部外面は回転ヘラ削り未調整。 ○底部内面は一定方向のナデ調整。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：やや不良 焼成：やや不良 色調：濃灰褐色 ロクロ：右方向
		178	口 径：16.4 高台径：12.3 器 高： 4.1	○平坦な底面から、やや厚を有しながら体部に至る。口縁部は尖り丸味に収まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、高台底面は凹状を成す。接地面は平らである。	○底部外面はヘラ切り未調整で、粘土層状を明確に施す。 ○底部内面は丁寧なみがきを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良 (変形) 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		179	口 径：16.5 高台径：11.3 器 高： 4.0	○平坦な底面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部はやや尖り丸味に収まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、内面端で接合する。	○底部外面はヘラ切り未調整で粘土層状を明確に施す。 ○底部内面はナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：不良 (変形) 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		180	口 径：17.2 高台径：13.4 器 高： 4.4	○ほぼ平坦な底面から丸味をおびて立ち上がる。口縁部はやや尖り丸味に収まる。底面端にハの字形に開く高台を貼付し、接地面は平らである。	○底部外面は回転ヘラ削り調整。 ○底部内面はナデを施す。 ○他は回転ナデ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃灰褐色 ロクロ：左方向
		181	口 径：26.0	○口縁部はやや厚めで外上方へのび、口縁部はやや内凹丸味となる。胴部はなだらかに外下方に下がる。	○胴部外面は平行叩きで、一部平ステケンを施す。 ○胴部内面は同心円文脈が残る。	胎土：良好 焼成：良好 色調：濃灰褐色

品名	形状	四角番号	法量 (mm)	形態の特徵	成形の特徴	備考
成順産	182	口徑：12.0 基径：6.8 瓶高：11.5	○口頸部は比較的細く、口縁部で大きくラッパ状に開く。肩部は比較的丸く収まる。肩部口徑が頸部径より大きくなる。胴部中央に2条の沈線を通す。 ○口頸部内面及び外面の一部に自然線が残る。	○口頸部内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色	
短頸産	183	口徑：8.2 体部最大径：14.6	○口頸部はやや内傾気味で、口縁部は比較的丸く収まる。肩部はなだらかに下り、中央に重なり痕が残る、それ以下は稍かかふる。 ○口頸部中央に一条の沈線を通る。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 口クロ：右方向	
新 一	184	口徑：13.2	○口頸部は短く、わずかに外上方へのびる。口縁部は、ほぼ平らに収まる。肩部は大きく外下方に下り、なだらかである。肩部外面に把手痕らしきものを認める。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 口クロ：右方向	
成 原	185	口徑：13.5	○口頸部は外上方へまっすぐのびる。肩部外面上方に一条の鈍い沈線を通しなだらかに下り、体部に亘る。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 口クロ：左方向	
原	186	口徑：17.5	○口頸部は外上方へのび、口縁部でわずかに外反気味になる。肩はほとんど強らずになだらかに下がる。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色 口クロ：右方向	
	187	口徑：27.0	○体部より直線的に外上方へのびる。口縁部は凹状を成して内傾する。 ○口縁部に一条の沈線を通す。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：やや不良 色調：淡黄灰色	
	188	高台径：10.6	○右部上方から比較的なだらかに外下方へおりた後、やや平坦面をなして、ほぼ垂直に短くおちる。	○内外面ともに回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：淡黄灰色	
試 原	189	口徑：11.1① 11.3② 11.5③ 瓶高：4.0③	○杯身の器壁で3層の積み重ねである。 ○ほぼ平坦な底部面から立ち上がり、口縁部で内湾気味となる。口縁部は丸く収まる。(扁平位の杯体③)	○底部内面中央にナゲを通す。(扁平位の杯体①) ○体部内外面は回転ナゲ調整。	胎土：良好 焼成：不良 色調：淡黄灰色	

測定	器形	図版番号	法尺 (cm)	形 態 の 特 徴	成 形 の 特 徴	備 考
	杯身燻着品	190	口径：13.8③ 12.2④ 11.5⑤ 器高：4.1⑥	○杯身の燻着品で、5個体の積み重ねである。 ○口縁地帯は丸く収まる。	○最下位⑥の外面は回転ナア調整。	胎土：やや不良 焼成：不良 色調：派風灰色
試 掘	重・有台杯身 燻着品	191	口径：17.2①(重) 17.5②(身) 16.5③(重) 16.0④(身) 器高：3.9④ 高台径：11.9② 11.0④	○重と有台杯身の燻着品で、4個体で2組の積み重ねである。有台杯身の上に重を通過しにして置いている。 ○重と杯身の間に最近張袴つまみと思われるものをはさんでいる。	○最下位④の底部外面はへき切り未調整。	胎土：良好 焼成：良好 色調：派風灰色

表 菅江窯跡、西谷窯跡出土須惠器の蛍光X線分析試料の観察表とデータ

報告番号	種別	型式	色調	焼成		備考	K	Ca	Fe	Rb	Sr
				型	級						
1	須惠器	杯蓋	青灰色	型	●		0.511	0.090	2.21	0.745	0.319
2	〃	〃	〃	〃	●		0.505	0.150	2.28	0.759	0.345
3	〃	〃	青灰色(褐色)	あまい	③	生焼け	0.498	0.107	2.78	0.682	0.309
4	〃	〃	青灰色	型	●		0.479	0.074	2.95	0.637	0.275
5	〃	杯身	〃	〃	●		0.367	0.046	4.71	0.459	0.162
6	〃	蓋	〃	〃	●		0.490	0.073	2.33	0.716	0.278
7	〃	〃	〃	〃	●		0.551	0.073	2.27	0.842	0.308
8	〃	〃	〃	〃	●		0.543	0.088	2.15	0.790	0.285
9	〃	〃	〃	〃	●		0.501	0.104	3.61	0.651	0.248
10	〃	〃	青灰色(褐色)	〃	③		0.513	0.116	1.91	0.741	0.326
11	〃	〃	〃(*)	〃	③		0.471	0.095	2.71	0.661	0.261
12	〃?	?	赤褐色	あまい	③	一部分が黒色に焼ける生焼け	0.358	0.101	5.06	0.363	0.154
1	須惠器	杯蓋	青灰色	型	●		0.641	0.155	1.84	0.828	0.313
2	〃	〃	〃	〃	●		0.635	0.120	3.44	0.768	0.215
3	〃	杯身	灰褐色	ややあまい	③	生焼け状	0.603	0.124	2.14	0.828	0.265
4	〃	〃	青灰色	型	●		0.683	0.117	3.06	0.771	0.239
5	〃	〃	青灰色(褐色)	〃	③	試料は 断面採取	0.700	0.143	2.83	0.785	0.250
6	〃	〃	青灰色	〃	●		0.718	0.130	3.15	0.810	0.269
7	〃	蓋	〃	〃	●		0.766	0.186	1.67	0.959	0.323
8	〃	〃	青灰色(褐色)	〃	③		0.688	0.124	3.32	0.805	0.232
9	〃	〃	〃	〃	●		0.693	0.152	3.33	0.830	0.246
10	〃	〃	青灰色	〃	③		0.672	0.131	3.28	0.763	0.240
11	須惠	—	〃	(よく焼きしめる)	●		0.568	0.178	3.21	0.531	0.162

奈良教育大学 三辻利一氏 金沢大学 北村圭弘氏 提供。

(注) ・北村が試料の選別、観察をおこなない、三辻が分析をおこなった。

・焼成の○は酸化、●は還元、③は同一個体に両方あるもの、もしくは中間色。

・色調の()内は断面色。



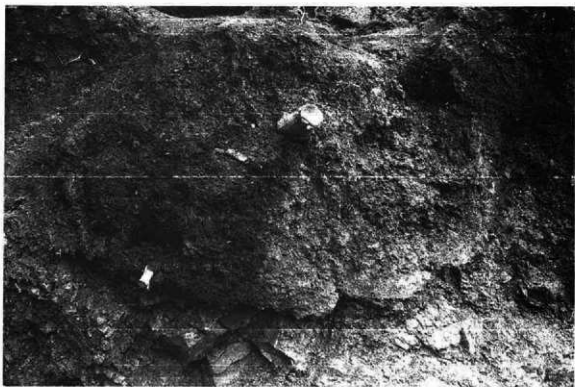
調査前風景（西から）



調査前風景（東から）



1号窟露出部 (調査前)



1号窟断面 (B-B')



1号窠第3次層（上層）檢出狀況



1号窠第2次層（中層）檢出狀況



1号窟第1次層（下層）檢出狀況



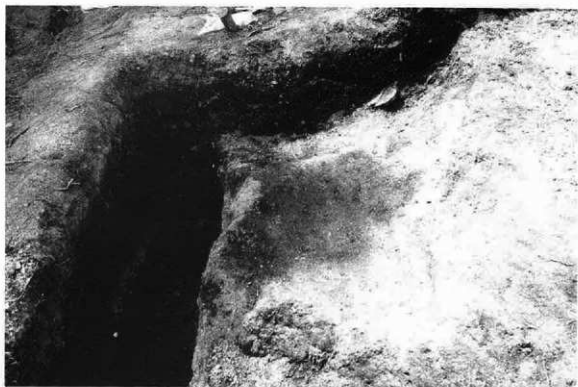
1号窟遺物出土狀況



第一 灰原検出状況（北から）



第二 灰原全景（西から）



第二灰原檢出狀況



第二灰原遺物出土狀況



5



19



9



20



10



21



13



22



16



25



第一灰原出土遺物



第一灰原出土遺物



第一灰原出土遺物



96



101



102



104



105



106



108



111



114



115



116



119 a



(下から)

119 b



117



118



122



123

第一灰原出土遺物



124



147



133



149



141



151



145



156



146



158





181



182



188



189



190

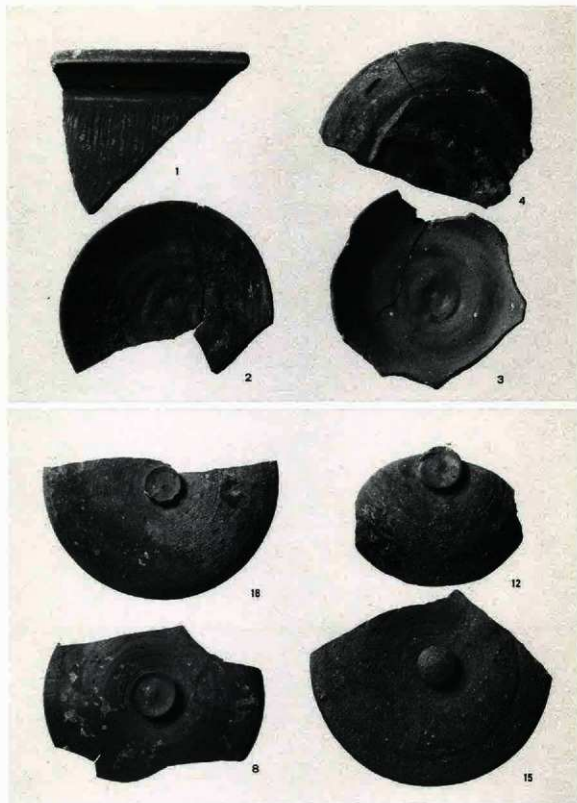


191 a

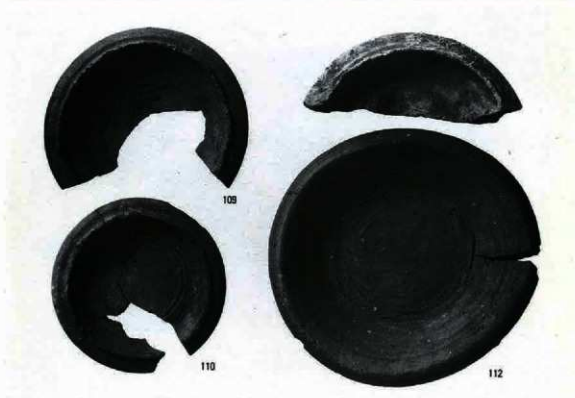
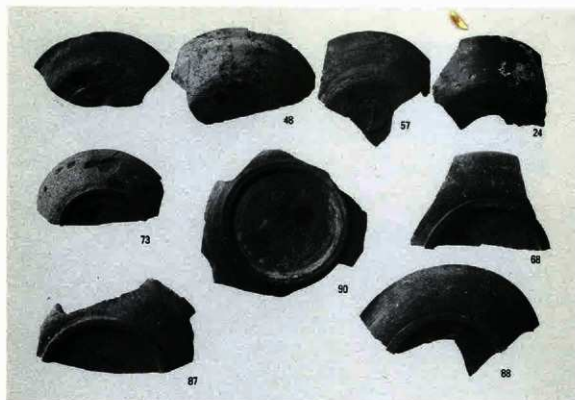


191 b

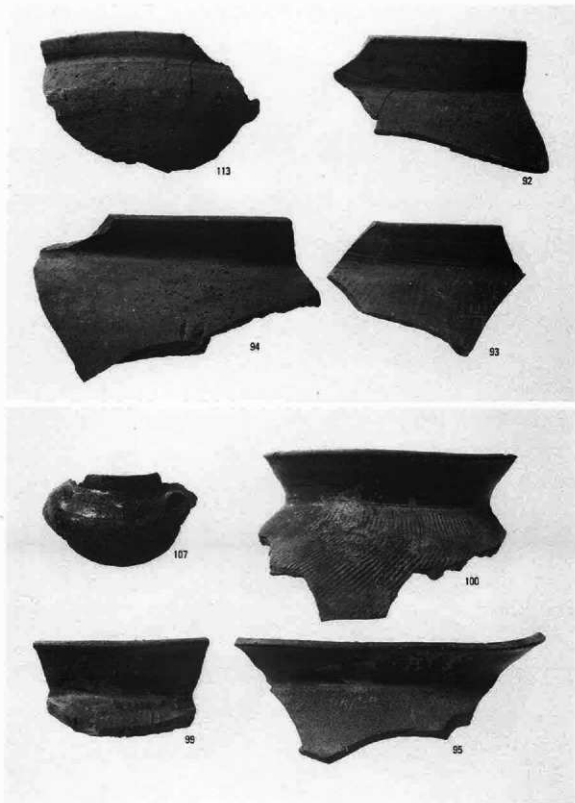
第二灰原、試掘出土遺物



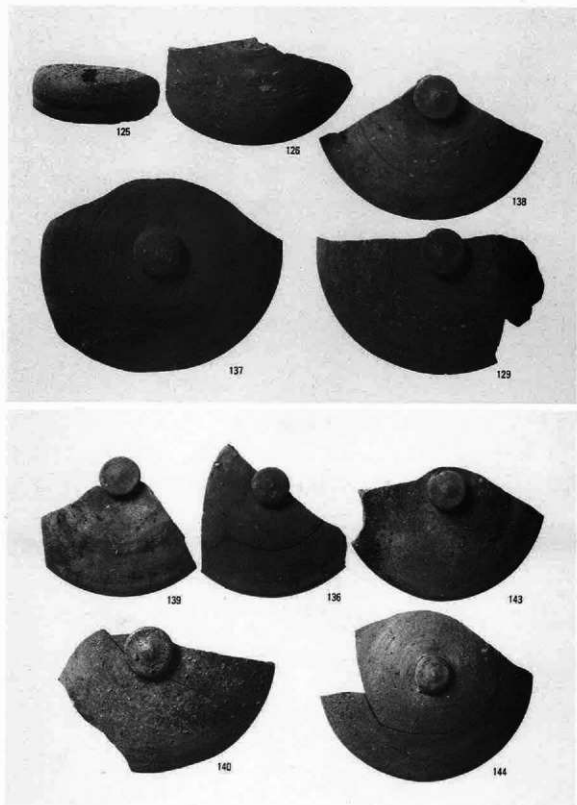
1号窟(1~4)第一灰层(8,12,15,18)出土遗物



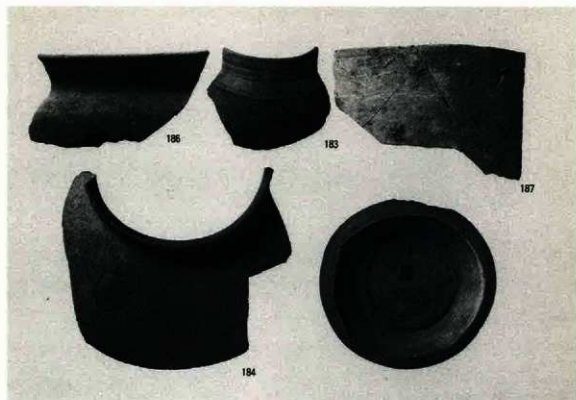
第一灰原出土遺物



第一灰原出土遺物



第二灰原出土遺物



第二灰原出土遺物

菅江遺跡発掘調査報告書

昭和62年3月

発行

山東町教育委員会

滋賀県坂田郡山東町長岡1206

TEL (0749) 55-2040

印刷

立木印刷

滋賀県坂田郡米原町醒井478-1

TEL (0749) 54-2662